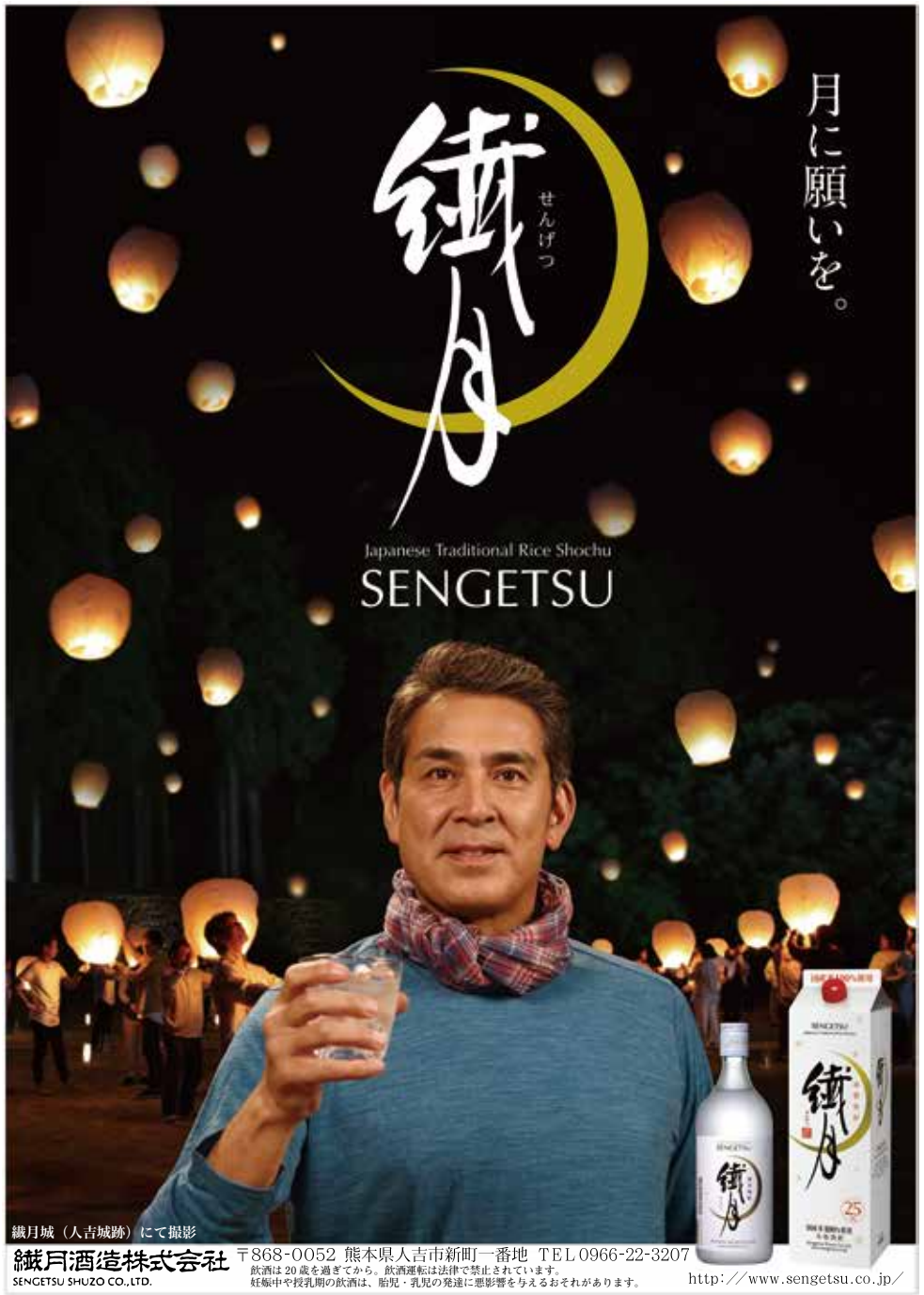
月刊くまがわ春秋 第32号 2018年11月15日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社 TEL 0966-23-3759／FAX 0966-23-3759
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号 http://www.hitoyoshi.co.jp/ info@hitoyoshi.co.jp



定価 540円
本体 500円
雑誌 81779−11-8
4910817791182
00500

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2018 11 第32号

SL58654の軌跡



第２球磨川橋梁を渡る「ＳＬ人吉」 © 福井 弘

最近のおもな出来事

10月14日（日）
▽第7回とっておきの音楽祭・第22回人吉ふれあい百円商店街（人吉市九日町一帯）
▽田んぼの学校inさがらむら（相良村内一円）
10月20日（土）
▽人吉球磨総合美展（～25日、人吉市スポーツパレス）
▽球磨中央高・球磨商百貨店（～21日、同校）
▽ふれあいまつり〝くまむら〟（～21日、球磨村総合運動公園）
10月27日（土）
▽たらぎ文化財かるたスタンプラリー「秋のまち歩きイベント」（多良木町内）
▽第3回さがら産業文化祭（～28日、相良村総合体育館）
10月28日（日）
▽「日本でもっとも豊かな隠れ里」サイクリング人吉（人吉城跡ふるさと歴史の広場集合）
▽ノスタルジック人吉（JR人吉駅前広場）
11月3日（土）
▽第41回錦町ふるさと祭り（～4日、錦町民グラウンド）
11月4日（日）
▽「SL人吉」最終運行感謝セレモニー（JR人吉駅）
11月11日（日）
▽坂本ふるさとまつり（坂本町グリーンパークさかもと）

今月の一言

『文読む月日』（レフ・トルストイ編著　北御門二郎訳）より

すべての肉体労働は人間を高雅にする。子供に肉体労働を教えないのは、――彼を将来、掠奪者にする準備をしているようなものである。

【表紙写真】

第2球磨川橋梁を渡る「SL人吉」

今年、運行10周年を迎えた「SL人吉」。その記念に人吉鉄道観光案内人会が発行した冊子「SL58654の軌跡」の表紙を飾った一枚。



2018年10月14日撮影
（福井弘／人吉市）

本誌の取扱店舗
■清藤書店■ブックスミスミ■明屋書店（錦店・免田店・多良木駅店）
■道の駅さかもと■ TSUTAYA 八代松江店

11月（第32号）目次

巻頭言「話し言葉」坂本福治…2
柳人があじわう漱石俳句㉜ いわさき楊子…13
田んぼの学校inさがらむら…14
さかもと児童画展・巡回展…15
くまがわの神さん仏さん㉗ 宮原信晃…16
肱川氾濫「私から言わせれば人災や」森 明香…18
新・日曜釣り師心得⑨ 宮原赤竿…22
向田邦子さんと妹・和子さんのこと 上村美鈴…24
建築みてある記㉗ 森山 学…28
記憶の落ち穂㉛「伊勢湾台風の時」坂本福治…33
芸を演じる面白さ・楽しさ 松本晉一…34
鶺鴒短歌会…37
「あがっ段」㉙ 上杉芳野…38
荒瀬ダムの「ダムカード」上村雄一…40
韓国・三陟を訪ねて㊦ 宮﨑勇市…46
「出口」から考える「入口」問題 大草知子…50

特集・SL58654の軌跡

「SL人吉」今季の運行終了…3
ハチロク復活の舞台裏…4
SL58654の軌跡 ㊦…6
広告シリーズ① 試験地獄突破…53
受験生とどう生きるか 椎葉直美…54
砂時計―思い出るままに① 小野武己…56
漢和字典は面白い⑮ 鶴上寛治…59
小説・相良清兵衛⑪ 山口啓二…60
くまがわ狂句 村上鬼拳…64
外来語から学ぶ英単語㉜ 藤原 宏…65
ひろしのげっかん・ぎひょう…65
倉敷便り㉓「岡山県の多重塔」原田正史…66
おっとわっとあすび㉒ 松舟博満…69
お休みどころ通信① 興野康也…70
北御門二郎訳でトルストイを読む⑤ 喜多岡 洋…72
くまがわすじの考古地誌㉓ 木﨑康弘…74
天草の「五足の靴」⑦ 冨永和信…78
方言を味わう㉘ 稲留三郎の世界⑦ 前田一洋…80
いもご短歌会…82
くまがわ学習塾㉓ …83
マイ・文庫本『書店ガール7』白城松男…84
前号【くまがわ学習塾㉒の答え】…86
今月の秀句㉑ 永田満徳…87



巻頭言

話し言葉

中学時代と思います。教科書に、ある農業の先生が講話した話がありました。話が終わって、ある若者が質問しました。「ドジョウ、ドジョウとおっしゃいますが、赤ドジョウのことですか、ゴマドジョウのことですか。」それを聞いて、講師はあいた口がふさがらなかった、という話です。これでは何のための講話かわかりません。

現代は、意味不明の言葉が何と沢山あることでしょう。とくにカタカナ語に多いと思います。私は食事の時、左にラジオと二冊のカタカナ語辞典を置いています。意味不明の言葉を聞くと、すぐ辞典を見ます。しかし、二冊の辞典にもないカタカナ語がたびたびあります。話す人からすると、「それは常識ですよ。辞書が古いですね。もっと勉強なさい」と言われるかもしれませんが、テレビやラジオで話すことがある人は、自分の使う言葉が一般の人々に理解できるかどうかについて考える神経を持つべきであると思います。一つ理解できない言葉があると、脳の神経に悪いものがつまったように、それから先がわからなくなる気がしてなりません。

日頃から気になっていることがあります。人前で何か話す時、はじめに「エー」と言ってから話し始める人が少なくありません。それが決まりであるかのように思っているかに見えます。話の途中でも、「エー」をいくつも入れる人、「ア～」や「アノー」を入れる人、さまざまです。これらは、聴く人々にとっては耳ざわり以外の何物でもありません。不必要な言葉が多いほど、その人の見ばえが悪くなります。聴く人に不安を感じさせ、たよりない印象を残すでしょう。

自分の主張を大事にするには、原稿に書けない音は、極力つつしむようにしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

（坂本福治）

感謝込め出迎えお見送り

「SL人吉」今季の運行終了
多彩に10周年記念イベント



歌でお迎えの人吉駅前「ノスタルジック人吉」の会場（10月28日）

10年目となる蒸気機関車「SL人吉」は11月4日、JR肥薩線熊本～人吉間の今シーズンの運行を終了。128日間運行し、乗車率90％、乗客約3万人だった。

10月28日には、人吉温泉さくら会が「ノスタルジック人吉」を開催、明治・大正時代風の衣装で観光客を出迎えた。

一般社団法人人吉温泉観光協会は11月4日、JR人吉駅1番ホームで最終運行セレモニーを開催。「SL人吉」が雄姿を見せると、乗客や見物客らが、記念写真などを撮っていた。

また、一般社団法人青井の杜外苑街づくり協会主催の「人吉駅前マルシェ」も3、4日の二日間開催され、多くの人で賑わった。



藤原宏さん親子のチョンカケゴマ



賑わった「人吉駅前マルシェ」

ハチロク復活の舞台裏

人吉鉄道観光案内人会主催「SL人吉」運行10周年記念講演会



講演会に先立ち、SL 人吉の今年度のラストランの「お見送り」がおこなわれた



参加者は DVD をみながら解説を聞いた



あいさつする立山会長

11月4日、人吉鉄道観光案内人会（立山勝徳会長）主催の「SL人吉」運行10周年を記念する講演会が、旧人吉駅機関区庁舎で開催された。立山会長は、「SL人吉は表舞台では華やかだが、その背後で、復活を支えてきた人たちの情熱と苦労を知ってもらいたい」と講演会を企画した趣旨を説明。講演会では復活にいたるまでの経過をDVDをみながら、それぞれの場面について、復活に携わった技術者・運転士の7名が解説した。SL本体を解体し、個々の部品を点検・修理・交換するときの技術的課題など他の場所では聞けない話で



矢古島副支社長の司会で講演会は進められた

参加者を魅了した。参加者は約１００名。講演会終了後、アンジェリーク平安に会場を移し、記念式典と祝賀会が開催された。

鉄道案内人会のご好意で、同会作成「ＳＬ５８６５４の軌跡」（平成30年11月4日）を転載させていただき、講演会の内容紹介に代えさせていただく。

講演会の解説者（講師）は以下の通り（敬称略）。

《ＪＲ九州株式会社熊本支社》

矢古島竜太　副支社長

熊本乗務センター主任運転士

市原昌之

同

石田龍夫

熊本車両センター運輸指導係

奈良崎淋

《ＪＲ九州エンジニアリング株式会社小倉車両事業所》

モノ作り統括責任者

古川正史

鋳造課副課長

安廣直哉

車両統括車体課副主任

玉井明人

部品統括　台車課技術係

清水利男



会場には SL 人吉関係の写真が展示された

《人吉鉄道観光案内人会》

平成 20 年2月、鉄道退職者で結成。机上学習・現地研修などの活動を経て、翌 21 年4月に活動開始。案内活動、それにともなう警備活動のほか、鉄道写真展の開催、「肥薩線・男たちの記録」「同2」の編集発行をおこなうなど活動を実施。今年は結成 10 周年にあたる。この間に、案内活動330回、講演 41 回を実施。



アンジェリーク平安で開かれた祝賀会

「SL人吉」運行10周年記念企画

SL58654の軌跡（上）

人吉鉄道観光案内人会／編



「人吉鉄道観光案内人会」発行の記念誌

プロローグ

観光列車「SL人吉」を索引する58654号機は、特別な運命を背負ったSLである。

大正11年11月、日立製作所笠戸工場で誕生し、浦上機関区に配属されたのを皮切りに、九州内12ヶ所の機関区を転属しながら奮闘し、昭和43年6月、人吉機関区に配属された。

人吉盆地を縦走する湯前線を走り続けたが、国鉄の無煙化方針により、SLが次々に姿を消してゆく中、昭和50年3月、国鉄最後の8620型として湯前線を走ったのを最後に勇退した。

その後、D51170号機と並んで矢岳駅のSL展示館に展示、観光客や鉄道マニアの注目を浴びたが、昭和62年4月、国鉄から分割民営化されたJR九州の方針によりリニューアルされた同機は、観光列車「あそBOY」として華々しくデビュー。17年間、阿蘇高原を走り続けたが致命的な台枠損傷により廃車寸前となったものの、古い設計図があったことなどから再リニューアルに成功した。

平成21年4月25日、「SL人吉」として奇跡的な3度目のデビューを果たし、このSLが若い頃、日夜走り続けたふるさとを、今は観光のお客様を楽しませながら走っている。

日本で製造されたSLは3000両を超すが、このような再起再起の運命を背負って頑張り、誕生以来96年、今だに現役として奮闘するSLは他にいない。



湯前線で活躍していた頃の58654号機
（昭和48年8月30日、人吉区）

1、58654の型式 8620型について

「SL人吉」の牽引機関車、58654の正式名称は「1―C形過熱テンダー蒸気機関車」、8620型の58654号機で、通称「ハチロク」と呼ばれる。大正3年に第1号機が製造され、昭和4年までの長きに亘り687両（8620～88666）製造された国産の機関車である。

当初は本線の旅客列車として活躍し、増加と共に各地の支線の客貨列車用に使用され、その後全国各地で見られたなじみの機関車で、乗務員から好評であった。

この機関車の特徴は、一軸先台車ながら、島式一軸心向台車と呼ばれ、先台車の心向棒と第一動輪の特殊な構造で、二輪先台車と変わらぬ性能を持ち高速運転に適していた。

記録によれば、初めて人吉機関庫（昭和11年9月に機関区に改称）に配置されたハチロクは、昭和2年12月、68642号機で当時使用していた2Bテンダー6760形と共通運用で使用した。

その後増加し、昭和19年の大戦中は9両配置されていたが昭和40年代、本線の電化と無煙化が進み大型機関車が支線にも入線するようになり、人吉区でも昭和41年3月のダイヤ改正で八代～人吉間のいわゆる川線も永年走ったハチロクに代り、C55・C57型が転入し、湯前線と入換用として僅か2両を残すのみとなった。

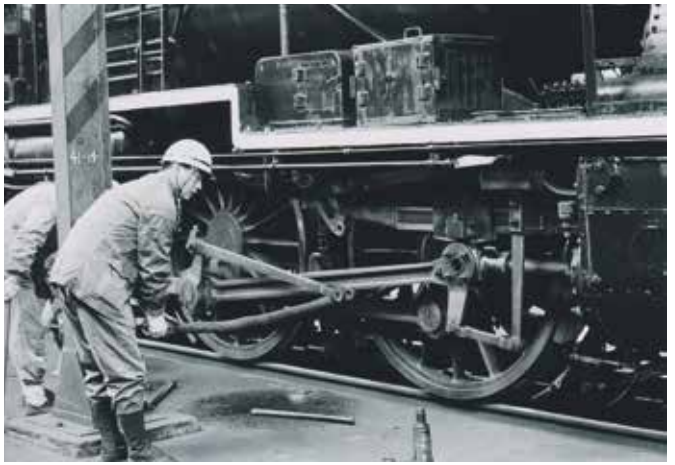
2、人吉機関区時代

本題の58654は昭和43年5月31日、北九州の若松機関区を発送。866レで回送、翌6月1日に人吉機関区に到着した。翌2日には入換作業に使用し、その後は湯前線及び入換作業の仕業についた。

この時点で、人吉機関区のハチロクは38633号機、78690号機の二両が配置されていたが、78690号機は、5月初めの検査でシリンダー体に亀裂が発見され、庫内に留置され、5月10日、一休車から7月20日、西部支社通途で用途廃止となった。

昭和47年3月26日、早岐区より48647号機が転入し、31日から使用。代りに58654号機が4月1日から休車となったが9月2日解除され、その間38633号機も8月1日、一休車となり、11月7日で用途廃止となった。

明けて昭和48年5月26日、48647号機が一休車となり稼働車は58654号機だけで湯前線を守っていた。6月16日には、48679号機が鹿児島区より861レ次で回送され転入してきた。代わりに48647号機が9月20日、工車達762号で用途廃止となった。



回送準備を行う 58654 号機（人吉区、昭和 51 年 3 月 8 日）

転入した48679号機はボイラー不良で、2回臨時入場したものの状態不良で、昭和49年12月1日、熊鉄通達281号で一休車となり、昭和50年3月9日のダイヤ改正前日まで、58654号機が連続使用された。

昭和50年2月26日、湯前線にDD16型の入線試験を行ない、27日から本務機とし、次位に58654号機を併結し練習運転を行った。

3月9日の最終日には、重松隆敏氏（故人）の運転で最後を飾り、開業以来湯前線から煙が消えた。

翌日3月10日から58654号

58654 号機の履歴

大正 11 年 11 月 18 日　日立製作所　笠戸工場で製造される
大正 11 年 12 月　浦上機関庫（現長崎）に新製配置
大正 15 年2月　若松機関庫に転入
大正 15 年9月　吉松機関庫に転入
昭和7年 11 月　鹿児島機関庫に転入
昭和 14 年 11 月　豊後森機関区に転入
昭和 18 年2月　鳥栖機関区に転入
昭和 20 年8月　吉塚機関区に転入
昭和 24 年8月　西唐津機関区に転入
昭和 30 年6月　鹿児島機関区に転入
昭和 30 年8月　西唐津機関区に転入
昭和 39 年3月　若松機関区に転入
昭和 43 年6月　人吉機関区に転入
昭和 51 年 6 月　D51 と共に矢岳駅に展示
昭和 63 年 1 月　解体され小倉工場に
昭和 63 年7月 27 日　整備されて熊本～人吉～吉松間で往復試運転
昭和 63 年8月より　熊本～宮地間の「SL あそ BOY」としてデビュー
平成 17 年8月 29 日　お別れ運転を肥薩線で行う
平成 19 年2月　小倉工場で修復工事
平成 21 年 4 月 25 日　「SL人吉」出発式
平成 30 年　「SL人吉」運行 10 周年

機は一休車となり、次いで同月31日、工車達1609号で用途廃止となり車齢50半ばで国鉄から籍が外れた。

さらに、前年の暮れから、一休車中の48679号機も工車達100号で、5月6日、用途廃止でハチロクは国鉄から消滅した。

3、保存展示

58654号機は車庫に保存され、以前から人吉市では国鉄に払下げを上申していたので昭和51年3月に無償貸し渡しの許可がおりた。考えて見ると、もし不許可なら今日の「SL人吉」は無かったことになり国鉄の配慮に感謝したい。

市では前年の9月定例市議会でハチロクの展示場所は、矢岳のD51展示館を使用する事になり、設置に社会教育費の名目で350万円を追加計上し、2月に展示館の拡張工事を施工した。

一方、58654号機は昭和51年3月6日より上部塗装を行い、



矢岳へ回送される 58654 号機
（大畑 867 レ間、昭和 51 年 3 月 11 日）



D51170 号機と共に展示された 58654 号機
（矢岳駅 D51 展示館、昭和 51 年 6 月 4 日）

8日には主連棒の取り外し、クロスヘッド及びリンク類の固定・注油等回送整備を行い、3月11日、867レで次位逆向きに併結し矢岳へ回送し、貨物ホーム側線に留置した。



矢岳駅に展示される直前に整備にたずさわった検修係の皆さん
（人吉機関区、昭和 51 年 3 月 8 日）

据付けは日通に委託し、15日に矢岳駅前を通り展示館まで敷設した仮線で午前中テンダー、午後から機関車をウインチで搬入した。

D51と並んだ姿は親子を思わせる光景であった。6月には国鉄から市への引き渡し式が行われ、これで安住の地に落ち着き、矢岳の名物がひとつ加わった。

4、人吉を去る

ところで、思わぬ問題が起きた。

それは、昭和54年8月1日、山口線に蒸気機関車復活第1号として、C571による「SLやまぐち号」が運転を開始し好評を博していた。

昭和62年4月1日、国鉄は分割民営化されJR九州が発足し、ただ指をくわえては居られず、九州にも蒸気機関車復活の気運が浮上。そこで、九州に展示している蒸気機関車で保存状態が良好で下級路線にも入線可能な機関車を探していたが、その条件に合った58654号機に白羽の矢が立ち、熊本支社を通じ人吉市へ返還を申し出た。

借りた物は返すのが世の中の道理ではあるが、市にとっては寝耳に水で、今日まで経費を掛け、国鉄ＯＢの長老、得田徹氏（故人）の手入れで、Ｄ51と共に美しい姿を見せていた。

ＪＲ側は当初、阿蘇山や高原が展開する豊肥本線に観光列車として使用する目的であった。しかし、市では肥薩線でなく、豊肥本線を走らせるなら返還できないと反対した。

集客力は、世界に誇る阿蘇山を有する豊肥本線には肥薩線は太刀打ち出来ず、正に「鳶に油揚げをさらわれる」事になり、数回の交渉が行われ、ＪＲ側は肥薩線に年三回程運転し、お披露目運転は、肥薩線で行うと言う条件で、昭和62年12月11日に合意した。

５８６５４号機にとっては、矢岳を安住の地と構えていただけに、再び鉄路に戻られる喜びと重なり、人間なら心境は複雑であったろうと思われる。

小倉工場に入場し整備されるが当然の事ながら鉄道輸送は不可能で、翌年１月７日、船舶に貨物の荷揚げ、荷卸しを行う、北九州の運搬業者「上組」により機関車本体・テンダー及び車輪に分けられ、３台のトラックで９日、住民達に見送られるなか、矢岳を去った。

途中の人吉市鉄工団地で２台にまとめ、国道を陸送し、10日に小倉工場に到着した。

（次号につづく）



機関車本体・テンダー及び車輪に分けられ、３台のトラックで運ばれる 58654 号機（昭和 63 年１月９日）

柳人があじわう漱石俳句

―32―



いわさき楊子

―漱石の俳句はここから―

先月、松山市子規記念博物館館長の竹田美喜氏の講演を聴く機会があった。「明治28年の子規と漱石―愚陀佛庵の52日―」と題された講演で、子規と漱石の俳句での接点を細密に知ることができた。

漱石28歳、愛媛県尋常中学校の英語教師だったとき、友人正岡子規は従軍記者として日清戦争に赴いた。中国から帰る船上で喀血した子規の養生を兼ねて、漱石が松山の下宿〈愚陀佛庵（ぐだぶつあん）〉へ招いたのだ。そして子規は52日間そこに仮寓した。その間、子規の元には学生や俳友が集い、俳句会が連夜ひらかれ議論が交わされた。

この52日の間に子規は俳人の地元新聞記者らと俳句革新をめざした。そのころ新聞は最大のマスメディアだった。漱石の下宿で現在にいたる俳句の基礎が築かれたのだ。漱石もそのまえから親しんでいた俳句ではあったが一気に傾倒していった。

愚陀佛は主人の名なり冬籠

（漱石28歳）

子規との同居から数カ月後には漱石は五高の英語教師として熊本に赴任する。その後も頻繁に子規へ句稿を送って仰いでいる。漱石の俳句の師はまさに子規だった。

鐘つけば銀杏ちるなり建長寺

（漱石28歳）

有名な「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺　子規」の2ヶ月前に漱石が詠んだ句である。漱石のこの句が「柿くへば…」の句に影響を与えたという説がある。それにしても、俗の食べ物である柿と寺の鐘の音を取り合わせた子規の句のほうが優れている。すみません漱石先生。

新聞の経済面でエコバッグ
贋作の贋作ならばシロだろう

【いわさき楊子（ようこ）／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

親子で秋の一日を満喫

田んぼの学校inさがらむら
稲刈りや架け干しなど体験

子どもたちが遊びや体験を通して水・農・食の大切さを学ぶ「田んぼの学校inさがらむら」が10月14日、相良村一帯で開かれ、県内から参加した親子連れが稲刈りや架け干しを体験した。

主催は人吉球磨地域土地改良区連絡協議会で、郡市をはじめ熊本市などから17家族54人が参加した。本誌など後援。

同村の瀬戸堤公園で開会式があり、水土里ネットや瀬戸ため池について学んだ後、柳瀬構造改善センターでクリを使った団子作りとストーンアート作りを体験。

午後は、十島地区営農生産組合が管理する田んぼで稲刈りを体験した。親子らは実った稲を鎌で刈っていき、藁で結んで架け干しにして、秋の一日を楽しんだ。


稲刈りを体験する参加者たち



参加者全員での記念撮影（写真提供：水土里ネット）

熊本地震復興チャリティー
さかもと児童画展・巡回展

11月3日、さかもと児童画展の巡回展示会が熊本市内で開催された（11月16日まで）。坂本住民自治協議会（谷口邦昭会長）が主催。熊本市教育委員会・八代市教育委員会などが後援した。

同協議会は、これまで地元の八代市坂本町で、2回にわたり児童画展を開催し、合計で約1800点の絵を展示した。展示した絵のなかには被災地、展示会後に発生した地震の被災地の児童の絵が多数あったことから、同協議会は、児童画の巡回展示をおこなうことにした。

今回は、約300点を選び「スマートひかりスクエアくまもと」（熊本市中央区桜町NTT西日本熊本支店1階）で展示し、坂本町での展示中に集まった寄付金の一部を熊本市に義援金として贈った。開催中には、熊本市内の橋本櫻さんによる紙芝居もおこなわれた。

来春は、小樽市（北海道）で巡回展示する予定。オランダの絵画教室との「交換会展示会」も計画している。


子どもたちの作品に見入る来場者たち


義援金が熊本市に贈られた


開催初日には「童謡コンサート」が開催中であった。同コンサートでも、巡回展の紹介があった

くまがわの神さん仏さん㉗

出町地蔵とおくんち御輿

宮原信晃



出町地蔵堂前を進む青井さんの御神輿

上の写真を見て下さい。

手前に写っているのは、おくんち祭りの青井阿蘇神社の御神輿（おみこし）で、奥に見えるのは出町（でまち）地蔵堂ですね。

今回はこの御神輿と出町のお地蔵さんのお話です。

昔々、犬童清兵衛（後に相良姓）さんという人吉藩の筆頭家老がおられました。天下分け目の関ヶ原でも最大の苦境に大活躍して大逆転、その手柄にあの徳川家康様にもお目見え出来た程のお方。

その清兵衛さんが今の人吉の街並み（五日町・九日町など）や人吉のお城、大橋（小俣橋も）、何と国宝になった今の青井神社もお造りになったのです。青井神社の本殿や楼門など五棟が今や国宝ですよね。現在の人吉球磨を初めから造り育てた大恩人は清兵衛さんでした。



しかし、とんでもない事が起きました。ある日、大事件が起きたのです。

清兵衛さんが江戸の幕府に呼ばれて裁判にかけられ、青森に島流しにされたのです。そのお方を幕府に訴えたのは何と、お殿様でした。

「あんまり横着になった」とかで清兵衛さんの家族、家来、一族を滅多斬りにして火を点けたのです。「お下の乱」といわれていますが、場所は現在の人吉城歴史館で、今でも清兵衛さん宅の地下室が残っていますよね。あそこで１２１名が焼き殺されたのです。



出町の地蔵さん

それからです。青井神社の大宮司さんが病気で亡くなったり、いろんな不気味なことが起こり出しました。お城のお殿様の命令で、神社仏閣の祈祷を各所で行いましたが、なかなか不穏なことが治まらず大騒動な年になりました。それは大きな力があった清兵衛さんでしたから、いなくなったら後が困ったのでしょうね。いよいよ切羽詰まってお城のお殿様が考えました。

「よか名案が浮かんだばい。青井さんに御輿を奉納せんばん」。

それで祟りや流行病などもピシャリと静まり、目出度し目出度しとなりました。そう、それが、この御神輿です。

それから十六年後に、出町の地蔵さんが今の所に鎮座されたのです。

お地蔵さんは、青井神社に背中を向けて、水害や、火災・天災を受け止め、青井さんをも護るために、今でも立ったままギロリと睨んでおられます。

おくんち祭りの御神輿とお地蔵さんは同じ苦難の中で生まれ、今の世まで私達を見守って頂いているのです。

青井阿蘇神社のお帰りには、どうか、出町のお地蔵さんもお参り下さいませ。

参考資料：本誌「小説・相良清兵衛」山口啓二

【みやはら・のぶあき／ＦＢお地蔵さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】

肱川氾濫
「私から言わせれば人災や」

高知大学 助教　森　明香

２０１８年７月に西日本を襲った豪雨は、私が訪熊する際にしばしば通る愛媛県大洲市・西予市等に大きな被害をもたらした。肱川（ひじかわ）が氾濫し、大洲市と西予市で計８人が、急な増水で逃げ遅れるなどして亡くなった。これらの被害をもたらした大きな要因に、上流の野村ダムと鹿野川ダムの放流があることが、複数の報道において早くから指摘されてきた。また、防災研究者として現地入りしていた同僚からも「野村地区の人たちがダム放流のせいやって、ものすごく怒ってはった」と聞かされ、気になっていた。



ひしゃげて根元から倒れた肱川沿いの柵

７月20日、被害の大きかった西予市野村地区を私は訪れた。災害ボランティア活動が主な目的ではあったが、地元住民がどのようにダムの放流を受け止めているのかを知りたいという気持ちも強かった。私は学生時代から川辺川ダム計画をめぐる流域社会を研究テーマとしてきた。川辺川ダム建設をめぐっては、球磨川の中・下流域を中心とする流域住民の生活経験に基づくダム技術への疑問が、ダム建設を止める大きな原動力となった。そうした生活経験に基づく認識が、行政の発表よりも往々にして信頼できるということを、私は流域に通う中で大いに学んでいた。

ボランティアのために訪れた民家の裏には肱川が流れていた。長閑（のどか）で、どこにでも流れていそうな小川だ。家の周りのアスファルトにこびりついた泥と、庭木などに絡まったものを取り除く作業をしながら、筆者は家主のご夫婦にお話を伺った。



保育園の隣の土地に積まれていた災害ごみ

その方は、この地に50年住んでいるが初めての経験だ、と言った。「蛇口をひねったみたいに急に増水し、しばらくするとその蛇口を閉めたかのように急に水が引いた」、「水位が急激に上がって下がるまで、体感で2時間半くらいだった」という。階段を見ているとみるみる水位が上がり、命からがら、窓からベランダがある側の屋根に出たそうだ。二階の窓枠の上まで水が上がったという自宅には、もう住めなくなっていた。

穏やかで、炎天下の中で作業をするボランティアを気遣ってくださるような優しい方だったが、ダムの話になった時には激しい言葉で「ダム放流をした立場の者が憎い」と怒りをにじませた。「ダムがあれば安心だと思い込んでいた」「そう言われた」とも話した。「うまく操作するのが人間の仕事。それなのに」と言って、こう続けた。「今回のことは豪雨が、と言うでしょう、自然災害だって。でもそれだけではないと思う。人間の手の入れ方もあると思う。私から言わせれば人災や」。

ダムが被害拡大の原因ではないかという認識は、被災直後から新聞やテレビで指摘されてきた。たとえば愛媛新聞では「西予市では野村ダムが放流量を増やした7日早朝から午前にかけ、下流の宇和川（肱川）流域で浸水する地域が相次ぎ、旧野村町中心部では自宅付近や車で移動していた5人が死亡。十数人が増水の速さに逃げ遅れ2階建の屋根に上がり、濁流の恐怖におびえながら数時間救助を待った」（愛媛新聞２０１８年７月８日）。朝日新聞では「上流の野村ダムが7日未明にほぼ満杯になったため、同日午前6時過ぎから放水

量を一気に増やしていた。〈略〉野村町でガラス店を営む男性（54）によると、午前7時前に警報が鳴り、まもなく自宅に水が迫ってきたという。水道水が出ず、電気も止まっているといい、『ダムの放流によって水かさが増した。できれば氾濫しないようにしてもらいたかった』と話した」（朝日新聞7月8日）と報じられている。

野村地区の上流にある野村ダム上流部では、7月4日の降り始めからの雨量が8日までに600ミリ以上が観測されていた。国交省「川の防災情報」で公開されている情報によれば、7日午前5時20分の段階で野村ダムの貯水率は100％となり、1時間後の6時20分に異常降水時防災操作を開始、7時50分には毎秒1797トンを放流した。これは、安全とされる基準である毎秒300トンの実に6倍にあたる。

一方、ダムの管理主体である国交省四国地方整備局は、ダムが被害拡大の原因であるという説を当初は否定した。四国地方整備局河川部の長尾純二河川調査官は「大量放流が被害原因だとか、防災操作は効果がないといったような報道が見受けられる」、「ダムは洪水調節機能を発揮し、避難活動にも貢献している」、「避難指示・勧告が発令されても、全ての人が完全に避難する行動をとってはいないのが全国各地の現状」と記者会見で述べるなどして、責任を認めようとしていなかった（愛媛新聞7月12日）。



「あの時、放流の報せは聞こえなかった」の声にも触れた

このように責任逃れに終始していた行政だったが、被害状況や放流に至るまでの経緯が報道されるに従って高まる世論を前に、肱川の2つのダムに関する放流操作の検証を余儀なくされている。「野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場」を催し、西予市と大洲市それぞれで、地元住民から意見聴取をする機会を設けざるをえなかった。住民からは批判の声があがるなど紛糾し、川西浩二管理所長は「結果として大きな被害が発生したことを重く受け止めなければならない。検証し有効な対策を図る」と表明した（愛媛新聞8月10日）

とはいえ、行政が本気でダム放流を検証しているとは言い難い。公開された資料および報道を見る限り、降雨予測を活用した操作規則を使い分ける放流警報周知文の変更や、情報提供ホットラインのTV電話の活用およびサイレン・スピーカーを増強する、といった情報周知。防災教育や防災行動計画の高度化、治水容量を確保する河川改修や運用といったレベルでの改善案しか検討されておらず、ダムそのものの効用について疑う姿勢は全く見られないからだ（第3回説明資料⑤・⑥）。


穏やかな肱川の流れ。河原に下りるとヘドロの臭いが鼻をついた。当初は片付けのため川にゴミを流していた、とも聞いた。川を覗くと川ガニがたくさん死んでいた

ダムで水害対策をするには限界があり、その限界は運用などでは永遠に超えられないことは、座長を務める鈴木幸一愛媛大学名誉教授が第2回会合の後に「降雨予測が正確なら最適な操作ができるが、難しいので規則を決めている。（今回の操作は）仕方なかったと思う」（愛媛新聞9月15日）と話すことにも現れている。

予測が当たらなければ不可逆な被害をもたらすのであれば、ダムは水害対策として有効な手段ではない。これだけの被害をもたらしたことを踏まえるならば、この事実に根本から向き合うしかないはずだ。「想定外」という言葉は、免れるための免罪符にはなりえない。大洲河川国道事務所は、その後も出水の度に水系の既設ダムが流量低減にどれほど役立ったかについて、こまめなプレスリリースを行なっている。だが、これほどの事態を経験してしまった今、ダムを造り管理する者が最低限果たすべきは、ダム技術が水害対策として有効な手段であるのかを事実に基づき根元から問い、検証することではないのだろうか。

※「野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場」はこれまでに、2018年7月19日（第1回）、同9月14日（第2回）、同10月25日（第3回）と開催され、第4回でとりまとめを行うとされている（2018年10月30日現在）。

【もり・さやか／高知市】

新・日曜釣り師心得⑨

小チヌの祟りじゃ〜!?

宮原赤竿



今期チヌ130枚を釣り上げた、一柳名人（いっちゃん）

日曜日に釣りに行くと翌日から3日間は体の節々が痛む。もう64歳を越えたから、あたり前とは思っていても釣りは止められないのだ。しかも数日前から歯が大きく腫れて歯医者さんから座薬ほどのデカイ抗生剤の飲み薬をもらって飲んでいる。

どうでもなれ！　と思いつつ入れ歯をはめると腫れた歯が痛むので入れ歯を留守番させて早朝4時前には出発した。あさぎり町から相棒のいっちゃんが迎えに来てくれていざ出陣。途中でサンドイッチを朝食に、下の入れ歯がないので前歯でモグモグしながら津奈木町の合串港へ着いた。

明るくなる6時から港に停泊している船頭さんの小船でイカダに渡してもらうのだ。金二千円也。

えさや竿、座るイスの準備が終わるとさあ釣り開始。

第1投目に、あらら〜もう隣のいっちゃんがヒット。引く〜引く〜！　2mもないダゴチン竿が折れんばかりに曲がるのだ。大物ボラの登場である。海面を割って現れたボラの姿に、こらうまかばい！。

続いてまたもやチヌがいっちゃんに掛かるのだ。

「やっぱし！　いっちゃんは名人ばい」と感心したところで私にも当たりが。

ググ〜？ちょろっと引いて上がったのは小チヌではないか。次から次に小チヌばかりがヒットする。7枚の小チヌをゲットした。

お昼から北風が強くなって早めに魚を処理しておこうと、生かし網から魚を出して目の上を包丁でしめる。

それからエラを切り血を出して腹を割いて最後に小チヌの頭をちょん切った。

「なんまんだ〜！」と小チヌの頭をちょん切っていく。

強風の中でしゃがんで魚をさばいていた時に大量の汗が出て来た。

なんでじゃろか？　そうか、歯医者さんから抗生剤をもらって飲んでいたからか。

しばらくしたら体が冷えてきた。背中も胸にも汗が出て、それが冷えてきたのだ。

何だか、体が動けなくなってきた。低体温症の症状か。

「いっちゃんもう帰ろい」とお願いしてイカダから港へ帰ってきた。車の中に入れた着替えで何とか事なきを得た。「あ〜寒かったばい」。

人吉へ帰宅して近くの温泉へ飛び込んだ。頭がボ〜ッとして来る。薄毛に効くという高級シャンプーも置き忘れ、日曜の楽しみなテレビ番組の「せごどん」も見ずにバタンと寝た。

翌朝、体が痛い、歯も痛い。

しかも体中が全部痒（かゆ）いのだ。

どこもそこも痒い〜。

飲み薬の副作用で出る薬疹の痒みか？　寝ても起きてもかゆ〜い。

「小チヌの祟りばい」と仲間がいう。

私も、そう思った。

【みやはら・せっかん／熊本飛翔会会長、人吉市】



こんな小さな私たちを喰うの!?

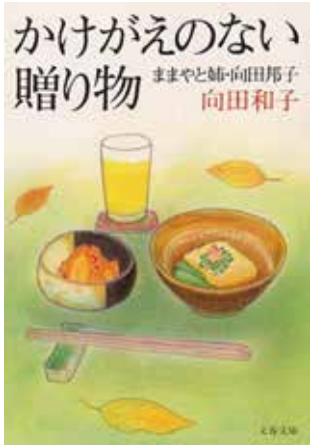


堪忍して〜。

向田邦子さんと妹・和子さんのこと

日本ペンクラブ会員　上村美鈴

大切にしている蔵書に、向田和子著「かけがえのない贈り物―ままやと姉・邦子」（文春文庫一九九七年。初出単行本一九九四年）と、「向田邦子の世界―没後十年いまふたたび」（図録「向田邦子の世界」展一九九一年十二月三十日～九二年一月十四日　会場：渋谷西武百貨店）がある。この二冊の本はいずれも私が担当した本で、前者は編集、後者は企画プロデュースの責任者であった。





直木賞を受賞したばかりの向田邦子さんが、台湾の航空機事故で亡くなったのは一九八一年（昭56）の八月二十二日のことだった。

当時私は文藝春秋事業局で、文化講演会、日本文学振興会の芥川・直木賞などの事務局の仕事に従事していた。選考委員会、記者発表、授賞式などの裏方である。当時の文藝春秋は二百五十人ほどの規模の会社で、四十代の部長、同じく女性の次長、そして三十二歳の平社員の私しかいない三人の部署は、とにかく毎日がめまぐるしく忙しかった。

向田さんは、一九二九年（昭4）生まれ、ラジオ「重役読本」、TV「七人の孫」「寺内貫太郎一家」「阿修羅のごとく」など、多数のドラマで高視聴率を記録した売れっ子の脚本家であり、書籍『父の詫び状』で話題になっていたエッセイストでもあった。

一九八〇年（昭55）、小説新潮二月号から「思い出トランプ」の連載を始めたばかりで、七月にはその中の短編「花の名前」「かわうそ」で第八十三回直木賞を受賞した。

八月六日、授賞式が新橋第一ホテル宴会場で開催された。受賞者の控え室には、マホガニーの大きな長いテーブルがあり、選考委員の山口瞳氏や水上勉氏ほか、関係者数名が、背もたれの高い椅子に腰掛けていた。

向田さんは午後四時過ぎをまわった頃、そっとドアを開けて入ってきた。山口さんらの祝福を受けて関係者と挨拶をかわすと、係員に促されて部屋の一角にある大理石風の暖炉の前に立った。ボブカットの黒髪、品のあるグレーに白い小さなドット柄のスーツ、高いヒールのシンプルな黒いパンプス。小柄だが、華やかな印象の綺麗な人だった。

その日は、夕方六時からの授賞式の前に社のカメラマンが写真を撮ることになっていて、撮影用に授賞式のリボンを胸に付けてもらわねばならなかった。

百六十五センチの私は、ハイヒールを履いた向田さんよりも上背があった。少し前屈みになりながら安全ピンでリボンを付ける作業を始めたが、しかし、グレーのスーツはふんわりと柔らかで、落ち感のある感触は、まさにシルク。まさか、そのシルクに安全ピンの穴を開けるなど思いもよらない。針と糸は後発車で届く文具の中に入っていて間に合わない。

自分の失態に後悔しながらホテルの係員に用意してもらおうと交渉していると、「いいのよ」と、後ろから少し高音の涼やかな声がした。「すみません、カメラが急いでいて」と振り向くと、大きな黒目がちの目が射るように私をみつめていた。再び、しゃきっとした声で、「へいきよ、後で直せるから」と口角をあげた顔は、優しいまなざしになっていた。

私は、急いで彼女の左胸に銀座松屋製の金色のリボンを付けた。向田さんは全身が少し震えているようにも感じられ、伝わった私の指先も緊張して震えた。三たびそ

の声が、「ありがとう」と言って、すっと私の胸の前を通り過ぎる時、鼻先が少し汗ばんでいて、清々しいシャネルの香りがした。後に聞いたのだけれど、スーツは植田いつ子さんデザインの特別オーダー製だったという。

向田さんとは、その後、社の応接サロンで一、二回見かけて会釈をする程度で、仕事では接点もなく過ごしていた。そして、授賞式の一年後、向田さんは帰らぬ人になってしまった。

八月二十二日、出版局の真ん中にある備え付けのテレビの前には多くの社員がいた。「やっぱりダメか」誰かの声が聞こえた。担当者でもなく、深く話したこともなかったが、涼やかな高音、射るような黒目がちの目をあのときから忘れなかった。大人の事情を鋭く描く向田さんの小説を読みながら、登場人物への少し意地悪な視点と、仕方なく許してしまう〝男前〟な優しさに共感して、ふと口角をあげている自分に気付くのだった。

そして10年後、私は向田さんの作家展を担当することになった。主催は西武百貨店、制作は文藝春秋と東京放送で、図録と会場内編集責任者として展覧会に出品される遺品の撮影を行った。その中に見覚えのあるグレーのスーツを見つけた。小さなドット柄、ふんわりと柔らかで、落ち感のあるシルクの生地。私はあのリボンを付けた時の安全ピンの穴を、まさかと思いながら探していた。そこには、明らかに針でプチンと引っ掻いたように細い糸が飛び出している箇所があった。

向田邦子の世界展はその後、仙台や鹿児島などでも開催し、各地の入場者数の記録を塗り替えていった。この作家展がきっかけで、向田家のあるマンションに通うようになり、お母上のせいさんや妹の和子さんにお目にかかって、話し込むことが多くなった。和子さんは、向田さんの10歳下の妹で、その頃赤坂にあった「ままや」の女主人だった。「ままや」は、料理好きの向田さんが、和子さんと一緒に作り上げ遺した店であった。

私はまもなく出版局に異動し、故向田邦子さんの書籍担当になった。和子さんに、「ぜひお姉様との思い出や『ままや』のことを書いていただけませんか」とお願いすると、しばらくして和子さんから「書きます」という返事があった。あの事故は、ご家族にとっては本当につらいことだったと思う。それを越えて、和子さんが懸命に綴ってくださったのが、『かけがえのない贈り物』である。

和子さんの初めてのエッセイは、こうしてできた。和子さんは「姉と違って、私には文章は無理」なんておっしゃるけれど、このエッセイの中に和子さんと向田さんのよく似た性格がいくつも出現する。それは、きりりとした世間への観察眼であり、それでも相手を許してしまう〝男前〟な優しさである。

私は、このご縁を大切に生きていたいと思う。すでにお母上のせいさんは向田さんのもとに旅立たれたけれど、私の手元には、楽しくお話を聞かせてくださったときのお母上と和子さんの声のテープが残っていて、いつか和子さんにお返しに上がりたいと思っている。

【うえむら・みすず／八代市】



明治から昭和初期、肥後と球磨で
繰り広げられた考古学者たちの
動静を記録した白熱のドキュメント
考古学はドラマだ。
※九州内の紀伊國屋書店を中心に熊本市内の主要書店
人吉球磨の書店、Amazonで取扱い中。
■A5判／約600頁／上製本
■定価3,000円（+税）送料200円
■発行元
人吉中央出版社

建築みてある記 ㉗

九州製紙株式会社鮎帰発電所
深水発電所をあるく

森山 学



写真① 油谷川から見上げた鮎帰発電所

八代市坂本町のくま川ワイワイパークは、西日本製紙株式会社の跡地である。

そもそもこの地に製紙工場がつくられたのは明治三一年（一八九八）。その二年前に発足した東肥製紙株式会社の工場であった。球磨川の支流、油谷川（鮎帰川）の美しく豊富な水を製紙に使用でき、球磨川の水運を活用して原料を運搬できることがよかった。

しかし東肥製紙株式会社は火災が原因で明治三六年（一九〇三）に解散、九州製紙株式会社に取って代わられた。その後、樺太工業、王子製紙、十條製紙と変遷する。十條製紙時代の昭和四一年（一九六六）には八代工場に統合され、この坂本工場は十條製紙の子会社、西日本製紙株式会社となる。この西日本製紙が昭和六三年（一九八八）に解散したことで、坂本町での製紙の歴史は終わる。

ところでこの工場の立地は、水力発電にとっても有効であった。今なお残る鮎帰発電所・深水発電所は、九州製紙株式会社時代の明治四二年（一九〇九）と大正十年（一九二一）に、各々、建設されたものである。

今回はこの発電所群を訪問したい。まずは鮎帰発電所（写真①②）へ。くま川ワイワイパークから油谷川を上流へ車で約六分、左岸に木造の瀟洒な建物が見えてくる。



写真② 鮎帰発電所。大和塀で囲まれる

内部に発電機を納めるだけなので、四角い建物に切妻造の屋根をのせる至ってシンプルなかたちである。外壁は鎧下見板張りで、白ペンキを塗装して仕上げており、四隅の柱だけが壁に覆われず露出している。



写真③ 左側面の妻。棟にフィニアルがある

こうした下見板張りのペンキ塗装の建築は、明治以降の日本の近代建築によく用いられた西洋風の様式で、八代市内ではこのほか、シャルトル聖パウロ修道院記念館（明治三三年＝一九〇〇年建設）やＪＡ八代さかも と支所（旧百済来村役場。建設年不詳）でも見ることができる。

屋根は瓦棒葺きである。瓦棒葺きとは、金属板を葺く方法のひとつで、角材（瓦棒）を縦に並べて配置し、角材と角材の間に金属板を敷く。両端の角材のところで金属板を折り上げる。金属の屋根を思い浮かべて、おそらく最初にイメージされる屋根である。

ただし鮎帰発電所では通常、金属板で四角く覆う瓦棒を、頭の方を丸く覆っている。また金属板を縦に敷かず横方向に敷いている（金属板を縦に敷くことで、雨が流れる方向に継ぎ目がなく雨漏りに強いのが瓦棒葺きの利点であるが）。

屋根の棟には「フィニアル」と呼ばれる西洋風の装飾がつけられている（写真③）。

正面入口（写真④）と、左側面の入口のポーチには切妻屋根がかけられる。この屋根は柱で支えず、外壁から「頬杖」と呼ばれるつっかえ棒で支えているため、四角い建物から屋根が飛び出している！　という印象を与える。



写真④ 正面入り口ポーチ

正面と左側面の窓は、かたちは縦長で、窓台の上に乗る太い窓枠でしっかりと囲まれており、西洋風の窓のつくり方である（写真⑤）。



写真⑤ 正面の窓

右側面の妻には、小庇がかけられた開口部がある。板で覆われているが換気用であったと考えられる。この小庇を受ける持送りには、日本の伝統的な曲線がほどこされており（写真⑥）、瀟洒な洋風建築にあって、チラリと日本の伝統が垣間見える。



写真⑥ 右側面の妻。開口部の小庇を支える持送り

敷地にはその他、付属屋が建ち、大和塀が敷地を囲んでいる。

※　※　※

さて深水発電所（写真⑦）へ移ろう。深水発電所はＪＲ肥薩線の段駅から車で五分ほどの球磨川右岸にある。対岸から眺めれば、岩盤の上に、または岩盤がない部分はアーチで補ってその上に、布積みの石積み擁壁を立ち上げる。そうして確保された平場に建屋が建てられている。



写真⑦ 対岸から見た深水発電所。岩盤の上に建つ

レンガ造の建築で、木造トラスの小屋組に寄棟屋根をかける。対岸から眺めて正面の壁（写真⑧）は、両端が手前に出っ張って、柱型をつくっている。壁の上端も手前に出っ張って梁型をつくっている。この柱型と梁型は、壁を縁取る額縁のようである。

この額縁のなかに付柱が六本、立てられる。柱には柱頭もあって、まさに古典主義建築である。

古典主義建築とは、古代のギリシアやローマの建築に範をとってつくられた、後世の建築のことを指す。柱の上端に「柱頭」と呼ばれる飾りを持ち、「エンタブラチュア」と呼ばれる梁をかけ、「ペディメント」と呼ばれる三角破風をもつ屋根をかける。

深水発電所の六本の柱にとってのエンタブラチュアは、先ほどの額縁の梁型である。



写真⑧ 深水発電所の正面。柱頭のある柱、櫛形アーチの窓、ドーマー、フィニアルなど

この六本の柱の間に縦長の窓が開けられている。これらの窓は平たい櫛形アーチのかたちをしている。中央の窓の上には、十條製紙の社章が飾られている。

屋根には半円形をした換気口が二つ飛び出している。このように屋根から突出した窓を「ドーマー」と呼ぶ。また棟には、鮎帰発電所と同じくフィニアルがのる。

ところでこの建設年である大正十年（一九二一）に着目すると、八月号で紹介した「日奈久赤レンガ倉庫」と同級生であることが分かる。深水発電所もまた、日奈久赤レンガ倉庫と同様、レンガ造建築が実質禁止される市街地建築物法施行規則の改正（大正一三年＝一九二四）直前にあたり、晩年期のレンガ造建築と言える。

それにしても球磨川べりに建つ深水発電所の姿は、湖岸のヨーロッパ古城を思わせる。

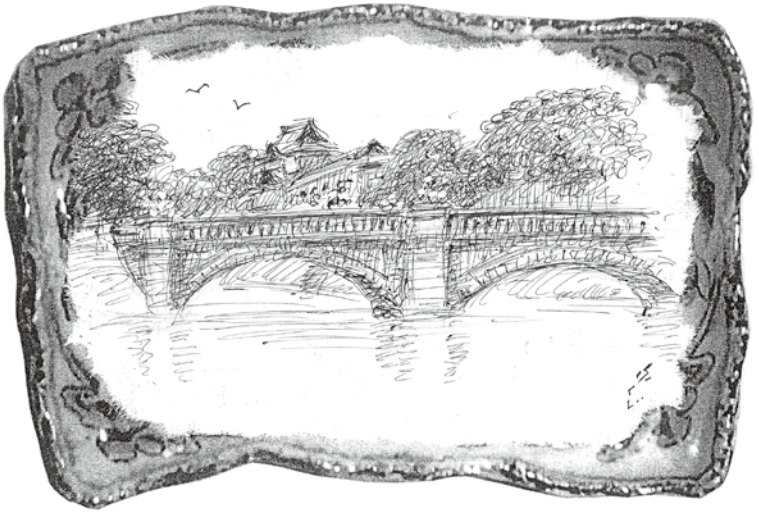
西日本製紙の解散とともに稼働を停止した二つの発電所が、今なお、このように保存されていることはありがたい。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】

記憶の落ち穂

その ㉛

絵と文／坂本福治



伊勢湾台風の時

昭和三十四年九月、名古屋地方を襲った超大型の台風があった。当時、私は二十七歳過ぎで、東京で新聞配達をしていた。朝三時半に起きて、「ローマの休日」にあるような三輪トラックを運転して駅へ行き、大型トラックが落とした新聞の包みを三店分積み、二店でおろして、自分の店で包みを解いて二百軒あまりの家に配る。

伊勢湾台風では、まれなる被災の大きさで、救援物資を集めて、朝日新聞の本社に届けることになった。道路がひどく渋滞した。私の三輪トラックは、走る時の風でエンジンを冷やす式のものだった。渋滞で発進しては止まり、少し行っては止まり、ということが続き、クラッチが焼けて、利かなくなってしまった。発進すると追突されたように動き、止めると衝突したように止まる。「これはどこかに車を止めて、エンジンを冷やすしかない」と考え、皇居の広場に入り込み、しばらく休んだ。その結果、目的が果たせた。約六十年前の事だが、一人で苦心した記憶は今、目の前にある。

【さかもと・ふくじ／画家、人吉市】

芸を演じる面白さ・楽しさ

熊本産業遺産研究会　松本晉一



その昔、人吉球磨は林業・木材業の盛んなこともあって、いわゆる検番が2か所も在り、街には芸者さんが行き来し、夜になるとあちこち（まるて・丸花・老松など）で、なんとも言えない三味線音（しゃみのね）と、次第にそれがドンちゃん騒ぎとなるその賑わいが、大工町の自宅には良く聞こえて来ていました。その当時の綺麗で粋な人吉の芸者さんたちのことを憶い出します。

10月末の土日、十島神社（相良村）横の十島文庫にて、作家・演出家の小田豊二氏をお招きして「演芸の面白さ・楽しさ」についての講話と実演をして頂いた。そのねらいは人吉や熊本の懐かしい昔と、氏のこれまでの芸能経歴を元に作家としてではなく、その演者としての一面や、著作の中の演芸界の内幕をお聞きしたかったのです。

そこでは参加者から「産業遺産の好きな方が、今回はなぜ演芸なのですか?」という素朴な質問がありました。その答えとして「産業とは〝仕事をして産物を生み出すこと〟なのですが、それは工業や林業、農業等のモノや自然を介しての生産だけではなく、ヒトを介して生産する産業の一つに、ダジャレではなく、〝三業という分野〟があるのです」と答えました。

今回の企画には「置き屋・待合・料理屋」の〝三業〟の世界こそが、このITとネット社会の中で従来の産業と



第11回球磨川アカデミア「藝を演じる!　演芸の面白さ・楽しさ」抄録集より



皆で「球磨川新調踊り」

同様、「今まさに、それが遺産・遺物となろうとしているので、あえて今回、三業を取り上げてみたのです」と真顔で答えたのでした。

演芸や芸能の演技は写真や本、ビデオなどで、動きも様子もそれである程度知ることが出来ます。でも実際の演芸と実演の雰囲気は、書物や写真、DVDでは物足りないのです。なぜなら、それを演ずる場、その雰囲気、そしてご本尊の演芸をする人とお客がそこに居ないからなのです。その場、その時の実際の状況は、映像となった写真集やDVDでは分からないのです。

今回は演芸というテーマ、概念づくりに何かを完成（定義）したかったので、あまり実技・実演には重きを置いてはいませんでした。しかし、今回、3組の地元の演技者の方々に、その踊り・実技をやって頂いて、その芸を演じる面白さとは、そのお客・その場・演じる人・その演目・演奏の流れによって、その時によって、参加した互いの感じ方がだいぶ異なるのだな、ということに気が付きました。

これらは、抄録には書けないことで、この会を実際にやってみて、皆様にお出で頂いて、演者にそれを披露して頂いたからこそ分かることで、とうてい本や写真、ビデオやゲーナばなしの記録では想像もつかないものでした。それだけ、その場の状況と雰囲気の素晴らしさは心と身体に残ったのです。形にする・芸にする・演じるということは、なんとも、すごい（歴史と文化の）エネルギーの塊そのものでした。

三業のこの中に演芸・料亭・芸妓・三味線・幇間（ほうかん）・料理・酒がなぜ存在したのかは、民俗学・社会学的視点をさらに必要としますが、要は〝この三業こそが多くの産業を支えていた〟ということ。また逆に産業がこの三業を支えていたという相互関係に気が付いたのでした。それは「息を抜く・バカになる・遊ぶ」という三業の仕事の大事さと、その重要性を感じたのです。

芸・人・場・仲介・報じる人・仕切る人、それがお茶

屋・検番・興行師他です。その場は、昔は野外では人の集まる道端や、店の前、そしてお祭りの境内などでした。屋内では後に寄席や演芸場のような専門の小屋が出来るようになりますが、その基本は料亭や座敷の畳の上、二十畳・十二畳・六畳、そして舟の上の三畳の間（座敷）他があったのです。

これまでは表側の産業を中心にやってきましたが、併せて、これからもう無くなるかもしれない、三業を主体にした両者の遺産研究にも精を出したいと考えています。ぜひ、この人吉熊本の芸者さん、置き屋さん・検番さん・料亭が在った頃の賑やかだった地元、特に人吉・多良木そして熊本の各地の三業遺産巡りをしてみたいと考えています。



「一人掛合い」に飛び入る小田氏（左）

また先では、日本中をさどりーま（ドサ廻り）して、寅さんに負けないようなその地の三業遺産巡りもしてみたいとイメージしています。そして内緒ですが、一度はその〝ゲイ〟にもハマってみたいと思います。ですが、目の前の11月の暦に「執着する心が強いと、かえって大切なものを失う」という標語で、ふと、我に返らされたのでした。

今回、第11回球磨川アカデミア「芸を演じる、その面白さ・楽しさ」の企画実現にご協力、ご支援を頂いた多くの皆様方に厚く御礼を申し上げます。

【まつもと・しんいち／人吉市】

○参考資料
・米村共司「熊本芸能界物語」昭和51年2月　日本談義社
・「芸を演じる」地元の懐かしい演芸写真集18・8・18　第11回球磨川アカデミア
・「芸を演じる」花柳琴臣師匠〝和心〟ワークショップ熊本・写真集２０１８・９・２
・「芸を演じる」麦島勝氏写真に見る演芸写真集　18・10・13　松本普一
・「藝を演じる！演芸の面白さ・楽しさ」抄録集　平成30年10月27日　十島文庫　第11回球磨川アカデミア運営委員会
・「芸を演じる！」第11回球磨川アカデミア写真集18・11・4　十島文庫

鶺鴒（せきれい）短歌会

十月詠草

秋の雨静かに降りて音もなく狭霧も出でて月も隠しぬ
十六夜の月冴わたり雲もなくすすき供えて豊穣祈る
守永　和久

道の駅友の笑顔を想いつつ「くまもんマーク」の土産を求む
久々に各駅停車の旅に出る駅名の呼び声なつかしく聞く
河内　徹夫

初秋に夫とテラスで飲む煎茶木犀の香のふっと漂ふ
稼ぎ来て夫と過ごしし半世紀稲穂の田畑今は葦に
中村美喜子

里山に台風襲い薙ぎ倒す後の始末に吾試される
倒木に工夫凝らして挑めども慣れないことにわれ儘ならず
西　武喜

「明日行きます」孫の電話で掃除するテレビの予報曇りと出てる
一人居はわかっていても淋しくて友の電話についつい長く
釜田　操

秋空に冴え渡る空星ひとつ森の向こうに星も流れて
十六夜の中天の月待ちをれど睡魔に負けて愛（め）でられもせず
三原　光代

満月に綱引きの声こだまして幼き頃の故郷を想ふ
刈り払い彼岸花除けそっと刈る彼岸供養の出会いを想い
橋詰　了一

「良かったよ」おまえと過ごした人生は話題を変えて幾日も語る
「いつまでもそばに居るよ」と呼びかける返す微笑み嬉しく哀し
堀田　英雄



上杉芳野の「あがっ段」㉙

剣道で、家族で偲んだ初盆

主人の父が4月に他界し、今年は初盆だった。

私達夫婦が結婚した頃は「芳野、おいが気に入ってもろたっじゃっでね」と人に言うほど喜んでくれ、とても優しくていろんな事があっても父の言葉で助けられた。

そんな父も年と共にだんだんと分からず屋になり、わがままになり、主人を困らせるようになっていった。

そんな父が私達が結婚した時、一番最初に言った事は「謙一は何も能のなかっじゃって剣道だけはやらせてくれね」と手を合わせ拝むように言われたのだった。それだけ父は主人の剣道の能力を信じ、楽しみにしていたのだろう。

あれから45年、結婚してからも剣道人生はずーっと続いて、北熊本・北海道・横須賀の少年工科学校、地元（人吉広報官）、えびの、健軍の転勤の先々でも隊員への指導と地域の子供達への指導を欠くことはなかった。

我が家の子供達も小さい頃から竹刀（しない）を握り自然と剣道をするようになった。

娘二人は高校までで終わり、初段と三段。長男だけが航空自衛官として働き、主人と同じように地域の子供達に指導し隊員との剣も交えて七段である。

主人と息子のどっちが先に八段に合格するのか楽しみにしている。

ちなみに私も段をもっていて〝冗談〟の腕前なのだ。

そんな剣道一家なので里帰りした時は息子、孫の昇永、優空たちは必ず稽古着、袴と剣道防具を持って帰ってくる。

今年は父の初盆ということもあって、父が好きだったことをしてあげようと、息子の大志と孫達が我が家にある道場で稽古を始めた。



今年の初盆に、稽古着と防具を持って集まった家族

すると娘の望も旦那の和也さんも、娘の夢都美も、そして主人も負けちゃおれないと練習を始めた。夏の暑い中、汗びっしょりになっての剣道の稽古だ。

孫の優空はお兄ちゃんに立ち向かい、孫の昇永は「じいちゃんに勝てそうな気がする」立ち向かうが「まだまだ負けちゃおらんぞ」とばかり竹刀でパンパーンと吹き飛ばす主人。

家族揃って剣道で、みんな一緒に汗を流したことはきっと、父は涙を流しながら喜んでいたように思う。

そんなお盆の行事が終わり子供達が帰った後にまたまたお笑いが巻き起こった。

中学2年になった孫の優空が主人の稽古着を間違って持って帰っていたのだ。

帰宅してその稽古着を着ると、主人の袴だったから、短いのに大笑い。つんつるてんである。

主人よりはるかに大きく成長した子供や孫達と、剣を交えたことはとても良い初盆だったように思った。

生前の父に感謝し、合掌。

【うえすぎ・よしの／ボランティア観光バスガール、あさぎり町上】

荒瀬ダムの「ダムカード」

上村雄一

8月17日、熊本県企業局は「ダムカードを発行します」と発表し、そのなかで「『全国初の事例として熊本県企業局が実施した事業』に関わる、あのダムのカードを10月（予定）に進呈できるように準備を進めています」と伝えた。「荒瀬ダム」と明記していないが、「『全国初の事例として熊本県企業局が実施した事業』といえば、荒瀬ダムの撤去作業しかなく、荒瀬ダムのダムカードの発行を予定していると示唆した。その後8月21日付熊日新聞は、荒瀬ダムのダムカードの発行を企業局が計画している旨の記事を掲載した。

すでに存在しないダムのカードをなぜ発行するのか。流域住民の強い要求に基づいて撤去されたダムのカードがなぜ必要か。カード発行を通じて撤去にいたる事実を歪曲しようとしているのではないか。そうであるとすれば、流域住民の意識を逆なでにする行為で決して許せないと考え、企業局の担当者に電話をかけ、荒瀬ダムを肯定的に評価するようなカードをつくるべきではないと伝えた。そのとき、同ダムのカードがどのような内容になるのか知っていたわけではない。

ダムカードとはなにか

「一見は百聞に如かず」である。現物をみればダムカードの内容は直ぐに理解できるが、現物に触れる機会のない人は少なくないであろう。加えて、ものごとの本質は視覚の力だけでは必ずしも把握できない。企業局はダムカードを次のように説明している。

「ダムカードとは、ダムのことをよく知っていただくために、平成19年度から国土交通省と独立行政法人水資源機構の管理するダムを中心に作成しているダム広報用のカード型パンフレットで、現在までに一部の都道府県や発電事業者の管理するダムなどでも配布されています。

カードの大きさや掲載する情報などは、全国で統一したものにしており、おもて面はダムの写真、うら面はダムの形式や貯水池の容量、ダムを建設したときの技術といった基本的な情報から、ちょっとマニアックな情報までを凝縮して載せています。」

この説明は、熊本県土木部河川課が2年前の2016年（平成28年）3月1日付の説明と同一である。企業局は土木部河川課のダムカード発行を先行事例として参考にしたのであろう。ただし、河川課が、

「熊本県では、ダムへの理解をより深めてもらうとともに、ダムへ訪れていただくことで、周辺観光地を含めたダムのアピールを行うため、ダムカードを配布します」

といくぶん素っ気なく説明していたが、企業局は、

「企業局では、事業PR及び地域振興の観点から、企業局が管理するダムでもダムカードを配布します。対象となるダムは熊本県内3か所、（1）幸野ダム（球磨郡湯前町）、（2）船津ダム（下益城郡美里町）、（3）都呂呂ダム（天草郡苓北町）です。是非、現地ダムに足を運んでいただき、ダムカードの入手とともに周辺地域の観光やお食事をお楽しみください」

と説明し工夫を凝らしている。内容的には、3ダムカードを集めた者に「コンプリートカード」として荒瀬ダムカード配布を約束している点に特徴がある。ここで2点ほど補足する。河川課は、市房ダム（水上村）、氷川ダム（八代市泉町）、石打ダム（宇城市三角町）の3ダムを管理し、それぞれのダムについての「ダムカード」（縦約6センチ、横約8センチ）を発行し、企業局はそれにつづく形でダムカードを発行したことになる。このように、熊本県には、県営ダムと企業局管理の2種類のダムが存在するが、ここでは荒瀬ダムが後者に属することを紹介するにとどめる。第二に、企業局は「荒瀬ダム」のダムカードに重点を置いている点に注目したい。他の3ダムのカードが無意味というわけではないけれども、あくまでも荒瀬ダムに焦点を当てている。荒瀬ダムは企業局にとって特別の存在として意識されている。

3ダム訪問

話を元に戻す。当初はダムカードの現物をみたこともなく、ましてや「コンプリートカード」という言葉も知らない状況であった。その発行を懸念しつつも、「荒瀬ダムカード」を入手するつもりもなかった。3ダムが近場にないことがその最大の理由であった。幸野ダムと船津ダムは比較的容易に行ける

が、都呂呂ダムは遠すぎる。3ダムを1日ですべてまわることはとてもできない。そう思いつつも「コンプリートカード」と名付けられた荒瀬ダムのカードを確認したいとの気持ちもあった。カードをみることなく企業局に抗議的意味を含めた電話をしたが、内容を確認してはじめて批判的な姿勢を維持できる。

そこで荒瀬ダムのダムカードを入手するために3ダムを訪問することにした。ダムカードはダムの存在する場所（管理事務所）を訪問しなければ入手できない。管理事務所（配布場所）で、所定の用紙に氏名・住所を書いて、はじめて1枚のカードを受け取れる仕組みになっていて、荒瀬ダムのダムカードを入手するためには3ダムを実際にまわるしかない。

それぞれのダムを訪問し、カードを入手すればそれで十分であったが、現場にいくと職員と短い会話を交わし、ダム業



コンプリートカード　表



コンプリートカード　裏



メモリアルカード　裏

務の現場の一部に触れることにもなる。都呂呂ダムの職員のひとりは藤本発電所に勤務した経験のある人で、いろいろと教示していただいた。幸野ダムでは同ダムと市房ダムの関係、同ダムに対する地元住民の要望を知った。船津ダムでは見回り業務の一部を垣間見た。3ダムのカードを集めるのは厳しい、けれども現場にいくことはカード入手だけにとどまらない意味があった。そこで働く職員（労働者）の声を短時間でも聞けたのは有益であった。

どのダムでも、ダムカードの入手者数、出身地を管理事務所の職員に質問し、兵庫県の男性がもっとも早くカードを集めていることなどを知った。その男性は新幹線で熊本市に向かい、レンタカーを利用して、2日間で3ダムを回ったという。マニアの迫力を感じた。そのほかにも印象に残ることが多数あったが、ここでは一切省く。

こうして8月中に3ダムを訪問し、3ダムのカードを集め、10月のコンプリートカード（荒瀬ダムのカード）の発行を待つことにした。

2種類の荒瀬ダムの「ダムカード」

10月2日、熊本県企業局は「2つの荒瀬ダムカードを発布します。」とHPで発表した。「2つの荒瀬ダムのカード」？「1つ」ではないのか。「2つ」とはどういうことか。8月17日時点では、「2つ」の荒瀬ダムのカードは予定されていなかった。いつの時点で企業局は方針を転換したのであろうか。それはともかく同HPは上記のタイトルで次の文章を掲載した。

「熊本県企業局では、企業局事業のPRと地域振興の視点から、企業局で管理している3つのダムのダムカードを配布していますが、新たに、幻の『荒瀬ダムカード』を2種類配布します。1つめは、荒瀬ダム建設当時の貴重な写真を使用した『コンプリートカード』です。2つめは、荒瀬ダム撤去前後の写真を合成画像したプレミアム感のある「メモリアルカードです。お受け取りに係る条件がそれぞれ異なります」。

取得方法は小論の主題ではないので割愛し、現物をみ、それぞれを比較してみるとき、企業局の説明のように、荒瀬ダムのダムカードは他のダムカードとはちがい、裏面の色も含めて特別仕様で、コンプリート・カード、プレミアム・カードの名称は大げさではない。しかしカードの表側にダム本体の写真、裏側にダムに関する情報を載せている点では同一である。どのダムカードも表側写真は放水時ではなくゲート閉鎖時のもので、裏側は規模などの基本情報のほかに、「ランダム情報」と「こだわり情報」の欄をもうけ、そこに力を入れているように感じる。

写真では、カード裏側の説明文を読み取れないであろうから、荒瀬ダムのダムカードの場合について文字にしてみる。コンプリートカードとメモリアルカードは同一の説明を載せている。

「川の瀬や岩に名前」をつけることは坂本町に限らず、球磨川流域全体にみられる特徴で、あえてこれに触れるまでもな

ランダム情報

日本三大急流に数えられる球磨川の下流域にある八代市坂本町では、川とともに生きてきた証として川の瀬や岩に名前がついています。カッパにまつわる伝説もあり見どころ満載です。また、地元食材を使用した「名物ぼたもち」や「球磨川の鮎」を堪能することができます。

こだわり技術

1955年に建設された「荒瀬ﾀﾞﾑ」は、戦後復興期の逼迫した電力需要を背景に1年10ヵ月という短期間で建設され50年以上にわたり発電してきました。その後、住民からの要望や水利権が失効したことから2011年度末に発電を停止して、全国初となるコンクリートダムの撤去工事を2017年度末に完了しました。

いようにみえるが、これに触れた意図は分からないわけではない。荒瀬ダム撤去が決まったとき、岩や瀬の名前を復元させようという作業が坂本で行われたからである。そのほかにも説明不足の箇所もあるが、字数を考えるとき、必ずしも不適切な説明でなく、「ぼたもち」に触れている点は評価していいほどである。

ダムカードをみての私見

荒瀬ダムの撤去工事は終了した。しかし、いまでも、ダム問題は球磨川流域の重要論点である。水害をもたらす危険があると国交省が15年間指摘しつづけている瀬戸石ダム問題のほかに、川辺川建設計画が復活する危険も残っている。そのような状況のもとでのダムカードの発行である。企業局は「カードとダムの撤去や建設の賛否は別。ダムの役割を知ってもらい、ダム見学者が増えることで地域振興にもつながる」と説明している（8月21日付熊日）が、ダムの否定的側面に触れずに、その効用面を記すだけであれば、「ダム」という構造物の存在を肯定する機能をダムカードは果たすであろう。

たとえばダムカードは放流時のダムの写真を採用していない。降雨による自然増水とダム放流による水量増加は質的にちがう。ダム放流時の状況を知らない者にはカードをみるだけでは、それが分からない。撤去運動については、なぜダムの撤去を求めるのか、ダム解体はもったいないのではないか、などといった発想をいだく人が出ても不思議ではない。ダムカードをみるだけでは、ダムは危険であるというイメージは生まれようがない。












瀬戸石ダムの放流（2千トン放流時）

ダム・マニアの間でダムカードが取引対象（投機対象）になっている状況にも注目したい。荒瀬ダムのプレミアムカードの場合、配布直後にオークションに出品されて1枚３０００円前後で取引されていた。すべて（特に、希少物）を商品にしてしまう現代社会の傾向の一例で、ダムカードに限定されない現象だが、「地域振興」ではなく「投機対象」になっている事実を発行者（熊本県・企業局）はどう思うであろうか。

今夏にダム操作のミスによる水害被害が大きな話題になった。球磨川の場合にも、昭和41年水害時に、市房ダムは緊急放流を実施したのではないかとの疑念が持たれている。いま必要なものは安全宣言的な広報物ではなく、緊急放流などダムの限界を説明するハザードカードではないか。たとえば、市房ダムが緊急放流した場合、どの程度の時間で、どの程度の水が増加するのかを示すカードであれば流域住民には有益である。いまでも、ダム放流についての知識がないばかりに人の生命が失われている。そのことを決して忘れてはならない。

荒瀬ダムのダムカードは撤去されたダムのカードで、他のダムカードと意味合いが異なる面（地域振興に力点がある）をもつようにみえる。他のダムカードと区別して検討すべき余地がある。しかし、ダム事業のＰＲを目的にしたカードであることに変わりはない。

★11月9日時点で、コンプリートカードの発行総数は80枚。県内6割、県外4割である。宮城県の人からの応募もあり、企業局はその人に同カードを交付している。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

韓国・三陟（サムチョク）を訪ねて（上）

李哲さんを救う会全国連絡会代表　宮﨑　勇市

球磨郡錦町出身の李哲さんについては本誌22号48頁参照のこと

始めに

しばらく途絶えていた訪韓を再開したのは、李哲の再審が始まってからであった。再審の傍聴に行ったり、無罪が確定した後「李哲（イチョル）さんを救う会全国連絡会inソウル」を開催したりと渡韓の機会が増えた。裁判傍聴やオモニ㊟の墓参りなど共に行動してくれていたのが、陳炯大（チンヒョンデ）・李玉粉（イオップン）夫妻であった。そのたびに「三陟（サムチョク）はいいところだから遊びに来てください。」と誘っていただいていた。私は東海（日本海）に面した海岸の美しさには魅了されていたので、一度はゆっくりと旅してみたいものだと思っていた。

李哲と陳炯大・李玉粉夫妻

李哲（イチョル）は今も在日同胞の再審無罪を勝ち取るために活動している。ドキュメンタリー映画『自白』で、精神を病んで「韓国には絶対行かない！」といっていた金勝孝（キムスンヒョ）さんの裁判にも関わり、無罪を勝ち取っている。再審で検事側から無罪にしてくださいと裁判長に頼んだそうだ。今回も崔（チェ）哲教（チョルギョ）さんの再審裁判傍聴のための渡韓で、それに便乗する形で三陟の旅が実現した。

陳さん一家も「北のスパイ事件」の被害者である。陳さんの叔父二人は、「北」に行き生活していた。陳さんが17歳の時、その一人のおじさんが、里帰りしてきた。帰ろうという時に病気になり滞在が延びてしまった。お父さんは、弟である北のスパイを匿ったということで情報部に連行され、反共法違反で死刑判決を受け処刑された。このままでは迷惑がかかると、おじさんも自ら命を絶ってしまった。

陳炯大さんはお父さんを幇助したとして連行された。10年の刑で7年間の獄中生活を強いられた。多くは過去の事件を見直そうという動きの中で、再審裁判を闘っている政治犯の無罪を勝ち取るべく支援を行っている。

奥さんの李玉粉さんは、ソウルの裕福な家庭に育った女性である。出所した陳さんと出会い、とても良い人だと思った。しかし、結婚となると少なからず悩んだ。陳さんに「結婚してくれないと橋の上から韓江に飛び込む。」と言われた。実は陳さんは海辺で育ったにもかかわらず、親から「長男が危ない事をしてはいけない」と海で泳ぐことを止められていて語らないが、7年の間には相当の拷問に遭っていることは想像に難くない。

現在は再審でお父さんと共に無罪を勝ち取り、民主化が進む韓国で何不自由なく暮らしている。そして、


三陟市葛南の港


陳炯大・李玉粉夫妻

㊟オモニ＝お母さんの意。ここでは李哲（イチョル）さんの義母、妻閔香淑（ミンヒャンスク）さんのお母さん、趙萬朝（チョマンチョウ）さんのこと。趙萬朝オモニは、娘と婿を逮捕投獄され、一人で救援活動をし、韓国内で知られるような、あらゆる手段を駆使して駆け回りました。日本から渡韓する救援会関係者は皆、オモニを頼っていきました。誰彼の救援会に関係なく渡韓した救援会と行動を共にし、一体となって活動しました。運動の過程で韓国の民主人士とオモニは広く知り合いました。救援会のメンバーと金大中氏に会いに行くこともたびたびでした。

て、泳いだ経験がなくカナヅチであった。

結婚にあたってはいろいろな人に相談に乗ってもらった。結婚式で神父さんの前で誓う時まで、神父さんに大丈夫かと聞いたほどであった。いろいろあるだろうが二人でしっかり歩いて行けば問題ないと言ってもらえた。

今となっては彼と行動を共にする中で、皆さんのような素晴らしい人たちとたくさん出会うことができ感謝していると明るく話してくれた。



ソウル高速ターミナル

三陟（サムチョク）へ

9月6日、私たち球磨人吉組5人は、福岡空港を飛び立った。大阪から来る李哲夫妻は数日前の台風の高潮被害で関西空港が閉鎖されてしまい渡韓できない事態となった。ようやく福岡空港からの便が確保でき、到着が大幅に遅れたものの、なんとかソウルに到着した。東京からの二人もまじえて総勢9人での旅になる。陳炯大さんは三陟から私たちを迎えにソウルに来てくれていた。10人の顔が揃ったところで遅い夕食をとり、翌日からの旅行に備えた。

翌日、陳さんの案内で私たち9人は、ソウル高速ターミナルから高速バスで三陟に向けて出発した。約4時間の後、三陟バスターミナルに到着。そこに李玉粉さんが迎えに来ていた。さらに路線バスで40分。三陟市葛南（カルナム）が夫妻の暮すところである。

約350年前、陳さんの祖先は葛南の美しい景色が気に入り、旅の途中で住み着いた最初の住民であるという。以来、代々ここに居を構えて生活してきた。したがって葛南地区のほとんどが陳さんの家の土地だったようである。秋夕（旧盆・今年は9月24日が旧8月15日）の前には墓掃除をしなければならない。以前は36か所あったが、今は整理して17か



三陟の市場



三陟市葛南の海岸

所になったけれど、墓掃除がたいへんだという。それぞれの墓にごちそうを供えるのも結構大変なことであろう。9月7日、陳さんは弟さんと墓掃除に出かけ、午前中はいっしょに行動しなかった。

陳さんが投獄されていた間、若い弟さんが家を守っていたが、たくさんあった陳家の土地は没収され人手に渡ってしまっていた。帰ってきたら地区の人達は、出所した陳さんを「赤」呼ばわりすることもほとんどなく、多少の緊張感はあったとしても普通に生活できた。陳さん一家が地区の要として350年間働いてきた証しであろう。



韓国軍の監視小屋（中央）。左端は陳さん宅

夫妻は民泊（民宿）をやっておられる。きれいな砂浜の周りは全て民泊であり、夏の海水浴シーズンは、その砂浜が立錐の余地無くパラソルが花開くのである。したがって、7、8月は忙しいから9月になったらいらっしゃいといわれていた。

この美しい海岸にひとつだけ違和感を覚えるものがあった。朝、砂浜を散歩していると、軍のジープが兵隊を乗せてやって来る。そして待っていた兵3人と交代する。近くに監視所があるという。東海から侵入してくる北の軍やスパイを睨んでいるとのこと。未だに分断され、休戦とは言え「戦争が続いている」朝鮮半島の現実を見せられた思いがする。

（次号につづく）

【みやざき・ゆういち／球磨郡湯前町】

「出口」から考える「入口」問題

―私立大学医学部入試における女性や多浪受験生に対する不正について―

大草 知子

ん？　題名に驚かれましたか？　テヘヘ、おてんばドクターもシャキ～ンとした一面を持ち合わせておりますので、今回は真面目に、真面目に。

昨今、社会を賑わせている「私立大学医学部入試における女性や多浪受験生に対する不正問題」について、おてんばドクターなりに脳みそをフル回転させ、ご意見を申し上げさせて頂きます。

この問題を論じるにあたっては、⑴医師業務の背景と現状（歴史、業務内容や職場環境）、⑵男女の生理学的特性を踏まえて考える必要があります。



⑴ 医師業務の背景と現状に関して

40年余り前、私が医学部に入学した当時は、女性比率は約10％弱でした。その理由は「女性医師の入局（特に外科系講座）はお断り」「患者さんより〈女医さんは頼りないので、担当は男性医師が良い〉など男性優位の背景があり、女性にとっての医師業は前途多難であることが明らかだったからです。医師という仕事は、３６５日、24時間、常に臨戦態勢、患者さんの病状によっては何日も帰宅できない、ましてやその業務中に妊娠・出産・育児はもってのほか。加えて、家事は女性の仕事、このような状況で、医師業を目指す女性は非常に少数でした。あの時代、女性が医師業を目指す目的は、社会の需要に駆られてというより、本人の強い願望、意志によるものであったと思います。

時が経過し、時代は大きく変わりました。万人が社会参画する権利・義務・責任が常識となりました。「公平性」「透明性」が一層求められる社会に変革しました。



「女性患者さんより〈女医さんは良く話を聞いてくれるので、是非とも女医さんに診察してください〉との要望で、女性医師のみが診療に従事する「女性外来」が開設されるようになりました。

一方、医学界では、未だに古い体質が残っている部分がありますが、表向きには各学会や医師会が中心となり「男女共同参画」「労働環境の整備」への取り組みが推進されています。一昔前は、女性は医局の片隅でこっそりと更衣をし、ソファーで男性に混ざって縮こまって仮眠を取るのが日常でしたが、今は「女性更衣室」「女性仮眠室」がきちんと整備されています。（蛇足ですが、おてんばドクターは堂々と更衣、ソファーで大の字になって大口を開けて仮眠をしていましたが…。周囲の皆様、すんまっしぇ～んでした。）

となると当然、性別の50％を占める女性が医師業を目指す数が増加してきます。女性医師、患者さん、医局員の「意識や認識」は社会の変容になんとか追従できていますが、問題は、労働環境やシステム整備がそのスピードに追いついていないという現状があります。結果として、女性医師の休職や離職等により、不十分な医療提供体制、患者さんに迷惑をかけることなどの懸念が出てきます。そのため、いまだに一部の教育機関や附属病院では、かつて医師業の中心を担っていた男性や若年優位の風習が残っているのではないでしょうか。

(2) 男女の生理学的特性について

性差をお造りになった神様の仕業ゆえ、こればかりはどうすることもできません。男性の育児参画は可能でも、妊娠・出産を女性と平等に共有はできません。個人で解決できない問題であるからこそ、社会全体で一定のルールを整備して国民全体の問題として解決策を検討する必要があると思います。これには当然、予算の問題が生じます。議員や官僚の皆様、十分で抜かりのない調査、正確な解析と問題点の可視化、そして方策の構築、よろしくお願いしたいと思います。

結論は、「現在～今後の医師業の実態を正確に把握し、公平性・透明性のある、国としての対応が可及的速やかに必要」ではないでしょうか？　具体性のない結論ですが、以下、現場からの個人としての意見として具体的に述べさせていただきます。

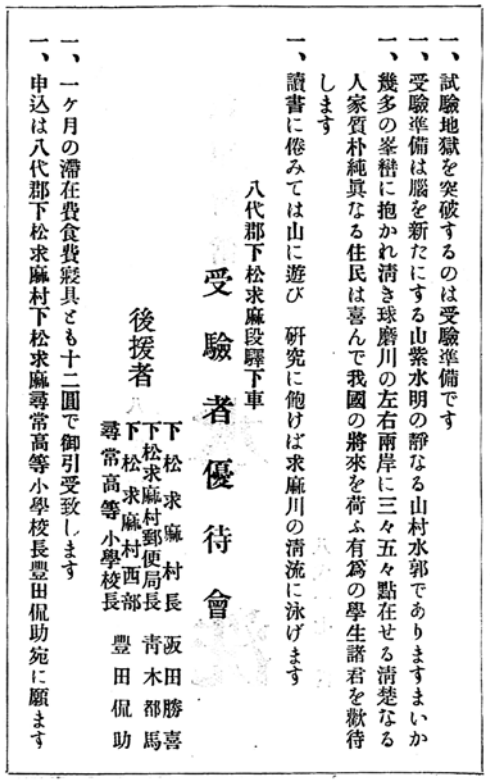
・一部でも国民の税金を使って運用されている教育機関においては、不透明、理由の不明な性差や浪人年数・年齢による合格者差別は良くないね。入試要項に、入学条件や合格審査基準をきちんと明記したうえで、裁量権を発揮して下さいまし。
・女性の特性（妊娠・出産・体力など）や個人の特性（年齢・能力）を考慮して、就業形態の工夫が必要じゃなかろうか。たとえば、ワーキングシェア制度、チーム編成、2交代制導入など、など。
・男性も積極的に家事・育児に参加し、周囲も理解を示して下さいまし。
・こら～、責任者～！　労働環境やシステムの整備（特に、これからの少子高齢化社会にむけて、子供や介護を必要とする家族のケア）、それに伴う予算配分をしてください！　戦闘機や迎撃ミサイルお買い上げ費用の一部をこれに廻して～。

【おおくさ・ともこ／医師、宇部市】

広告シリーズ①
試験地獄突破

花岡伊之作『球磨川案内』（昭和6年7月25日）中の広告。同書発行直前の昭和6年4月1日に肥薩線の段駅が開設されている。それを記念して、この広告が出された。

「試験地獄」であるから難しい試験であるのは分かるが、どういう受験生を予定していたかは判断できない。



一、試験地獄を突破するのは受驗準備です
一、受驗準備は腦を新たにする山紫水明の靜なる山村水郭でありますまいか
一、幾多の峯巒に抱かれ清き球磨川の左右兩岸に三々五々點在せる清楚なる人家質朴純眞なる住民は喜んで我國の將來を荷ふ有爲の學生諸君を歡待します
一、讀書に倦みては山に遊び　研究に飽けば求麻川の清流に泳げます

八代郡下松求麻段驛下車

受驗者優待會

後援者
下松求麻村　坂田勝喜
下松求麻村郵便局長　青木部馬
下松求麻村西部　豊田侃助
尋常高等小學校長

一、一ケ月の滯在費食費寢具とも十二圓で御引受致します
一、申込は八代郡下松求麻村下松求麻尋常高等小學校長豊田侃助宛に願ます

風景写真のない文字だけの殺風景な宣伝である。同地は蛍で有名だったので「蛍雪」の言葉から「試験」を強調する内容にしたのであろうか。下松求麻村は八代市坂本町の一部。昭和36年4月1日の上松求麻村、百済来村と合併するまで存続した。

段駅については本誌2号18頁以下参照。



花岡伊之作『球磨川案内』の表紙（昭和6年7月25日）


現在の段駅付近。周辺をみまわしたが、受験宿になるような場所はなかった。当時は違ったかもしれないので、機会があったら、調べてみよう

受験生とどう生きるか

椎葉直美

秋が深まると受験生を持つ親として焦りが出てくるのはもう2度目。親の焦りとは裏腹に、当の本人は寝そべりながらスマフォを眺めています。上の子の時もそうでしたが、この子もまるで人ごとのようにのん気なご様子。誰に似たのか分かっているから口に出せないのです。

本人はA高かB高かまだ決めきれず、父親は絶対A高、私は内心この子にはB高が相応しいのではないかと思ってはいますが、最終的には本人に決めてもらいたいと考えています。家族の考えが三者三様だから、親子や夫婦の間に嫌～な空気が漂う事もあります。人吉球磨には迷うほどの数の高校はないと思われるかもしれませんが、四校とも特色ある学科で専門的な事を深く学べるので、大人である私からしてもどの高校も魅力的です。将来の目標が定まっているお子さんは早くから志望校も決めて受験勉強に専念しているようですが、我が家は二回目の三者面談が差し迫っているのに結論が出ていないので、近頃毎日がヤキモキヤキモキです。

思い起こせば私も中三の頃は迷っていました。迷っていたと言うかフラフラしていました。私の場合、同じ中学の同級生と距離を置きたくてみんなが行かないような離れた高校が良いとか、青春を謳歌したいから共学が良いとか、高校デビューを狙っている少女のような理由で志望校を考えていました。将来の職業なんて真剣に考えたこともなく、高校卒業後どこかに勤められればそれで良いと思っていました。担任からは、高校を卒業して就職希望なのに普通科志望ですか？　とつじつまが合わない事を指摘され、その高校よりも鹿児島女子高の商業科をと勧められました。母親は元々自宅から歩いて通えるその高校に行ってもらいたかったので「そうすれば？」と言い、私もしばらくは考えたと思いますが最終的には鹿女子を選択しました。結果、共学の高校デビューは儚い夢となりました（笑）。

中三の夏休みから塾へ通い始め、先生のお名前は忘れてしまいましたがとても熱い先生で、月一万円というお手頃な月謝も魅力的だったのでしょう、Aクラス Bクラス共に常に満員御礼の大盛況ぶりでした。右手に竹刀、左手にテキストを持ちながら大声で分かりやすく授業をしてくださり、授業中よそ見でもしようものなら即座に竹刀が振り下ろされました（そんなに痛くはありませんでしたが）。先生お元気でしょうか。塾に行っている間は、周りの熱い空気に包まれ勉強に集中できましたが、中三の多感な頃って心が揺れ動いていますよね。私は気持ちが弱かったものだから勉強から離れて一人になると悪い誘惑に負けて大バカなことをたくさんしてしまいました。母親にバッグでぶん殴られたし、学校にも呼び出されたし、今となればどうしてあんな事をしてしまったのか反省していますが、当時は受験のストレスもあったのでしょう。色んなことへの反抗心が行動に表れていました。

このような様子で私は半端者の受験生でした。試験の最終日、家に帰りついてから後悔の念でボロボロと涙が出てきました。合格発表の日は朝10時までに自宅へ担任から電話がかかって来なければ合格という事になっていて、私は家で一人ドキドキそわそわと時計の針がその時間を過ぎて行くのを待ちました。なななんと！　電話は鳴りませんでした！　それから友人と高校へ合格発表を見に行きました。その日は清々しい晴天であったことを強く覚えています。

高校選択は子供たちにとっては人生を左右する岐路だけに、本人だけで決められる問題ではありませんが、思春期と重なり子供はなかなか親に本心を打ち明けられないものだと自分の経験上思います。思春期の子供とどう向き合うのかも難しいですし、志望校を決める時、親はどこまで子供の人生の中に入り込んで良いものか悩むところです。親が子供の為にとあれこれ口を出したり世話を焼き過ぎていては、将来自分で幸せを掴めない大人になるのではないかという心配を私はしています。

あーじゃこーじゃと悩める時期で白髪が増えそうですが、その先にある幸せ探しと捉えて、与えられたこの時間を、娘だけではなく私も精一杯生きたい。娘の真新しい制服姿を楽しみにしながら。

【しいば・なおみ／鹿児島市出身、あさぎり町在住】

砂時計
―思い出るままに①

小野武己

齢70を超えると、なんだか、昔懐かしい子供の頃の思い出ばかりが思い起こされて、その思い出を修飾して、良い思い出にしたがるものであるが、実は子供心をとんでもなく傷つけるものもあったと思いつつ、それをバネにして、明日を生きて行ったと思う。それには、やはり、父親はもとより母親の心配りと言うか、何気ない一言が、その子を立ち直らせる大きな要因になっていたように思われるのである。書き記した事柄については、人それぞれ、受け止め方は異なるのは当然であるが、それはさておいて、ある人間の昔話として、読み流して欲しいと思う。

1、銀シャリのお握り

私は、昭和16年に上海で生まれた。父は一級建築士であった。上海で会社を立ち上げて、わが家はレンガ造りの三階建ての大きな家であった。姉の話によると、大きな金庫があって、ガチャガチャと扉を開けると、中には札束と金塊が積んであり、何故か森永エンジェルキャラメルもあったとのことだった。リッチマンであったみたいだ。屋上には畳三枚ほどのプールがあって子供たちは、そこで水浴びに興じていた記憶があるのだが、実は、それは防火用水であったとのことだった。

二階の大広間にはすべり台があって、鴨居からはブランコが下がっていて、兄・姉がそれに乗って、小さな弟、妹をあやしていたとのことだった。確かに幼い記憶の底に、屋上の防火用水プール、鴨居から下がったブランコ、空襲警報のサイレンに、子供たちは防空頭巾をかぶって、我が家の地下の防空壕に逃げ込んだものであった。薄暗い中、ポチャンポチャンと天井から水の滴る音が、むしろ心を落ち着かせる作用があったように記憶している。

昭和20年8月15日、太平洋戦争に負け、終戦を迎えた。後ほど聞いた話だが、我が家の一階部分は中国軍の司令部として撤収されたので、家族は二階と三階に、近所の家を失った何軒かの家族も同居していたとのことで、子供が家を出ると、中国人にいじめられたり、はては誘拐されてしまうので、

ヒッソリと生活していたとのことを聞かされたのであった。

昭和21年の6月頃、家族は着の身着のまま、日本に引き揚げてきたのであった。

家族はその後、貨物列車に揺られ揺られて長崎県の佐世保市の隣の相浦という火力発電所のある町の、父のすぐ下の妹の家に身を寄せたのであった。食べ物も、ろくに無い時代であったが、粟や稗やトウモロコシ、ヒジキなどで飢えを凌いでいたということだった。

そんな中、母の後日談であったのだが、ある日、タアちゃんが、大きな声で泣き駄々を捏ねている様子なので行ってみると、その家の従兄にあたる、二歳年上の長男が、真っ白なお握りを両手に持って、見せびらかしていたという。「ぼくも、あんな、真っ白なお握りが食べたいー」と母に縋り付いてワーワーと泣いたという。彼は「やーい、お前なんかにやるもんかぁ」と両手の銀シャリのお握りをむしゃむしゃと食べてしまったという。それを聞いた姉も「実はそうなのよ。ほんとは私、六年生になっていたけど、私も食べたかったのよ」と事実を語ってくれたのであった。

それから半年程して家族は、福島県の飯坂町に引っ越していった。そこは、母の実家であった。大きな商家で味噌醤油問屋であり、呉服や雑貨も扱っていた。母の長兄が、後を受け継いだのだが、戦後の混乱の中、没落していたようだった。確かに家そのものは大きかった。家の裏には梯子で登るようなでっかい樽が左右に並んだ洞窟があり、僕が駄々を捏ねると、その叔父が飛んできて、「洞穴に入れるどぉ、泣き止めなさい」と脅かしたものだった。それでも食べるものには窮していて、小学生だった姉と兄は、ナケナシの母の着物を風呂敷にくるんで、国鉄の線路の上をトボトボと歩いて、田舎を回り、食料と物々交換してきたと話してくれたのだった。

その窮状を見かねた母の次兄が博多に来い、俺の家の下に古いが家が空いているので、そこに引っ越してきなさいということになったのだった。その母の次兄である叔父は東大を出て九州電力の初代社長になっていた。そこにお世話になり、その後、一家は僕が小学校の二年生の秋に、家族と離れ就職に奔走していた父だが佐世保市の小さな建築会社に勤めることになったので、そこに引っ越したのであった。

実は母から聞いた後日談だが、その九電の社長の叔父が父に「何も心配しないでいいから、九電の建築課に来なさい。それが嫌なら、今からは戦後復興の時代だから、建築資材がすごく必要になるので、土地建物は都合してあげるから、

建築資材店を経営したらどうか」との提案があったのだが、明治の男の反骨魂であったのだろうか、父は「女房の兄さんの世話にはなりとうない」と断ったそうである。

食い物の恨みは一生とばかり、それ以後、僕は相浦の従兄を大嫌いになり、彼が防衛大学校を卒業して、航空自衛隊のジェット機乗りになり、福岡の築城の基地に配属になり、休暇の時に佐世保の我が家に自家用車で来るのだったが、ほとんど口をきかなかった記憶がある。佐世保のデパートに連れて行ってくれたことがあったのだが、いつも「エンジン始動。エンジン快調。左右異常なし。出発進行」「前方横断歩道あり、歩行者なし、時速…キロメーターにて走行」と声を出して運転していたのだった。しばしばハガキも来た。それには、「叔父上殿、叔母上殿、自分は此の度、航空自衛隊一等空尉に任官されました。壮健にて頑張ってます」「叔父上殿、叔母上殿、自分は、この度、三等空佐に任官されました」と書いてあり、それを見た父は、「あいつは偉えのう、昔で言えば、空軍少佐じゃ。下士官もついとるんじゃ」と、戦争で苦労し、命からがら無一文になって引き揚げてきたのに、リッチマンから一挙に貧乏生活を強いられた戦争に対する恨みは大きかろうに、そんなことを言って、従兄を褒めるのだった。

それなら、畜生と思い「僕も自衛隊の医者になろうかな…」と行く積りもないのに、つい、口に出てしまうのだった。医学部は卒業まで二年長いので、一つ上の位に任官されるのだった。それを聞いた兄に「バカもん、戦争であれだけ苦労したのにお前が自衛隊などに入ったら、兄弟の縁を切るぞ」と怒鳴られたのだった。

小児科医院を開業してからの事。ある日の診療の合間、しばし紫煙を燻らせながらコーヒーを飲みテレビをつけると、丁度その画面に映っている男性があり、あれ、なんだか見たことある男だわいと目を凝らして見ると、例の銀シャリのお握りの従兄ではないか。そして「ソ連の軍用機が日本海に入ってきたのだが、今、踵を返して、自国に戻っていくところです」などと語っているのだった。肩書には航空自衛隊広報室長と書いてあったので、相当偉くなっていたと思われた。それはともかくとして、あの時、お前にもあげるよ、と銀シャリのお握りを半分でも呉れていたなら、今も仲の良い従兄同士であったろうと思うのだった。

（つづく）

【おの・たけみ／小児科医院院長、宮崎市大塚町】

漢字遊び　時には気分転換！

漢和字典は面白い　15

鶴上寛治

籍

結婚――民法上は婚姻届を受け付け、夫婦の新しい戸籍を作る「入籍」。最近はその手続きは略して「事実上の結婚生活」で通す人も増えてきた。役所はそれを把握するのが大変。義務教育・予防接種・救援物資の配布等々の公的な処置が洩れたりすると、「役所の方が悪い。」と騒ぎ立てる。最近はマスコミでも「一線を越えたか、越えなかったか?」が話題になる。該当者本人がそのことを云々するからおかしくなる。それも国会議員というお方々が…そんなときだけ「疑わしきは罰せず」なんていっても。「瓜田に履を納れず、李下に冠を整さず」じゃないのか? 該当者は、よくこの言葉を噛みしめてほしい。今は人の心が傲岸無恥というか、厚かましさが幅を利かせるようになっているのだ。

「籍」――竹を編んだしきもの（藉）。そのように編んだ札に戸籍を書いたから。

儚

「夢」は【夕部】の漢字で〈目がはっきりしない〉という意味。人偏のついた「儚」の第一義は〈おろか〉で、〈はかない〉は第二義。どちらもなんともなさけない言葉。でもこの漢字、書にするとなかなか書きごたえがありそう。なよやかにも、力強くも、どちらにも書けそう。漢字遊びも、時にはそうした角度の異なった遊び方もしてみたい。

旗

本来は軍団の大将がたてるもので、熊・虎を描いた赤いものだった。当然軍の存在する目印・標識にもなった。「○○旗下」という言葉もある。「其」に〈整っている〉という意味があるところから、長方形の整っているこの布きれを「旗」という字で表現した。さらに集団のこともさすようになった。それが風になびいて「はたはた」と音を立てるので、日本ではこの字を《はた》とよぶようになり、それがこの字の訓読みとなった。

【つるかみ・かんじ／人吉市】

生誕450年記念
書き下ろし

小説・相良清兵衛 ⑪

山口 啓二

パウロマルメ蔵人鉄斎はさっそく豊後の石工棟梁らに命じ、清兵衛屋敷庭の主要な三か所の地中に石垣で出来た『室』を造らせることにした。選ばれた豊後の石工達はその図面を見て、

「忠二郎どん、この石積みは我らが伴天連様に教わって造り、しばらく前に打ち壊したあの建て物によおう似とる―、そう思われんな」

「ああ龍助どん、あの府内大分の大友様の教会に造った建て物と瓜二つのようじゃ。しかし、あそこにあったのは地上の土を少しばかり掘って、水の出るところに造ってござったが、これを床下に造ると申さるっとでござるので」

豊後府内の石工棟梁、中村龍助と日下部忠二郎は驚いた。

「なんと、お主らは既にこのような建て物を造っていたとな。それはまことに好都合じゃ」

パウロマルメ蔵人に届いた洗礼池の図面は三枚あり、それはなかなか細密で、しかしそれは豊後の石工達が言うには地表上にあるらしく、今回はまったく似たものを地下三箇所に造るというものだった。その中は礼拝はもちろん、洗礼の儀式が出来る『聖水』を溜める水槽も造ったのである。特に清兵衛の屋敷内の地下室は水の湧く高さも判明し、それに合わせて高さは二間ほど、水槽は一間以上の深さで掘られ、その水槽には絵図面にある通り途中まで五段の石段を造り、その先はどっぷりと頭まで浸れるようにしそこで身を清め、降りて来た階段を昇ることは不浄として、身を清めたのちは別の階段を利用する、まさに絵図面とおなじ設計にした。しかしまさかこの建物がキリスト教の前身、ユダヤ教の聖水池『ミクヴェ』だとは、パウロマルメ蔵人も清兵衛頼兄も知る由もなかったのだった。

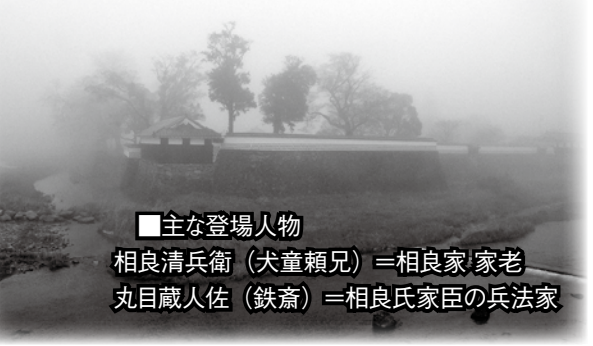
【前回までのあらすじ】父休矣の後を継いだ清兵衛は、藩内の本格的な基盤整備を進めていき、屋敷の地下にはキリスト教の礼拝の場所や洗礼池作ることとなった。

古来ユダヤの神を信じる淑女たちは『月のモノ』が来たら、そのあと十二日間は相手となる殿方との交渉を断ち、そして十二日経ったその日、聖なる『ミクヴェ』で身を綺麗に清めたのちに殿方と交わると、ちょうどその頃に子が宿すことを教えられ、それを実践していた。

「御家老、そろそろ室も完成いたしますれば、かかわった石工らの処遇をお考えいただけねばならぬかと」

「丸目殿、如何なされよと。豊後の石工らはそなたの指示通り立派な仕事をなしているではござらぬか」

「は、彼ら豊後にいた折もこのような聖水池を造った事、拙僧にも話してござった。このままにしておけばここに地下室を造ったことをこのあと他所でも話すに違いござらぬ。そうなればこの事が必ず露見するかと。完成したらあの者どもを闇に葬るのが寛容かと察しておりまする」



■主な登場人物
相良清兵衛（犬童頼兄）＝相良家 家老
丸目蔵人佐（鉄斎）＝相良氏家臣の兵法家

「なんともそういうことに相成りまするか。さて如何したものよのう」

「その儀、拙僧にお任せ下さりませぬか。拙僧がお役目引き受けてもよろしいのですが今や托鉢の身、御家老の命とあらば家臣たちも受け入れる事かと」

「そうか、あい解り申した。無念なれどそうするしか道はござらぬのだな。キリスト教のことは徳川様もこの先お認めはならぬであろうし、何卒よろしくお頼み申す」

地下室の建造にかかわった石工達は、完成ののちに清兵衛の命として全員が秘密保持のために闇に葬られ、執行した相良家臣の末裔達は、以来石工達の霊をねんごろに弔うこととなった。

完成した各々の『地下室』の上には、およそそれとは判明されぬよう仏堂や易堂が造られた。得意の『偽装工作』だ。球磨川のすぐ横の地下室の上には護摩堂を配した持仏堂が建てられ、中には大日如来の左右に不動明王と愛染明王を安置、そこでは朝夕の勤行が行われ、香の匂いが絶える事が無かった。この場所はのちに清兵衛の孫、喜平次の屋敷となった。

同じく清兵衛の屋敷内のもう一つの地下室の上は二階建ての持仏堂となり、その下部は漆喰で固めてあり、さらに石段を数段登ると、一階にはご本尊となる三世三尊仏、いわゆる過去・現在・未来の仏様が鎮座している。中央は過去を表わす釈迦如来像が、左には現在を掌る阿弥陀如来像、右には未来の人々を守り救う弥勒如来像の三体が、京の超一流仏師・翠心の手によって彫られ安置された。さらに二階に登ると東壁に薬師如来像が西方浄土を向いて鎮座していた。ここからは城のある東方以外、周りに遮るものが何も無かったので、窓からの眺望がすこぶる良かった。各階の天井には、水神によって火災からご本尊と建物を守ると言われた『蟠龍図』が描かれた。何れも荘厳な造りに仕上がっている。この床下に地下室などあろうはずがないと思われるほど完璧な『偽装工作』であった。全ての地下室には自然の明かり取りも設けられ、薄暗いが礼拝などの儀式には充分な明るさだった。

東南の、御館に一番近い地下室の上には予定通り深田石と漆喰で固められた易堂が造られた。

『深田石』は盆地の北側付近、特に山田や万江で盛んに切り出されていた。易堂の天井絵は一面に飛雀鳳凰が、壁には仙人の絵が描かれ、さらにそこには明をはじめ各地から取り寄せた易学書や儒学書それに軍事書、高価な置物、皿や茶碗や壺など珍しい品々が所狭しと飾られていた。対馬の宗義智公から贈られた、朝鮮や明の陶磁器や当時在る筈もないガラス製品など、貴重な品々も置かれていた。この易堂ではのちに京都から一流の学者を招き、儒教や易学の講義もさせていたが、京都から来たある高名な儒学者は、此処にある膨大な書籍に加え、貴重な皿や茶碗や置物が、地方の一小藩の、それも家老の屋敷にあるべきものかと驚いた、という旨を記しているほどだ。

公の御館の西側の石垣のほぼ中央の一部を改修し、そこに石段を設け公の正妻いく殿の通り道としたが、そこは『清兵衛門』と呼ばれるようになった。この石段は『お下の乱』のあとに封鎖されたが、それから二百七十年ほど後の大正時代にまた造り直され、いまも『清兵衛門』としてその名を残している。

翌慶長十三（一六〇八）年秋、十八歳になった嫡男内蔵助に、島津家ゆかりの日向之国・佐土原城主島津以久公の娘とき姫の御輿入れがあった。清兵衛にしてみればそ

の昔島津には幾度となく煮え湯を飲まされた出来事もあったが、島津本家・家久公の直々の仲立ちでもあり、父である清兵衛の人柄を見込んでの縁談である事も聞かされ、御家安泰を誰よりも願う清兵衛にとってはこのうえにない強い後ろ盾が付く事となった。この朝も深い霧が盆地をすっぽり覆っていたが、とき姫が到着した昼過ぎにようやく真っ青な空と眩しい太陽が見えた。とき姫は佐土原から百人を超える家臣を引き連れ、その夜は盛大な祝いの宴が取り行われた。

とき姫は歳十六、とても器量が良く、目鼻立ちがくっきりとして実に可愛いかった。

「殿さま、またでございますか。まだ陽も高うございまする。誰かに見られでもしたらときは恥ずかしゅうございます」

「よいよい、誰かに見られようと構わんではないか。さぁ、こちらへ参れ」

若い内蔵助は毎夜ならず、陽のあるうちからとき姫を可愛がるのであった。そのうちとき姫もその寵愛が待ちきれなくなり、遂には昼夜ならず早朝からでもとき姫自ら『誘う』ほどで、広い屋敷内のいたるところで二人は互いに躰を求め合うようになっていった。実はこの若い夫婦の食事には、清兵衛が指示し調合された摩訶不思議な媚薬『蓑野の秘薬天金丸』が、粉にされて少しずつ盛られていたのである。家内安泰と子孫繁栄をこよなく願っての事であった。この薬は蓑野山口の薬師・長蔵が調合したもので、精力絶倫の稀なる媚薬であった。

職人が住む屋敷や町家の区割りもほぼ整い、京都の街並みを真似た、間口が狭く奥行きの長い商人屋敷もほぼ予定通り出来上がっていった。

清兵衛は神々に約束した通り『青井大明神』の遷宮に取り掛かっていた。これまでの社殿は室町の末期に建て替えられた、規模としてはさほど大きくはなかったが、各所に守り神の五色の龍が配してあり、さらに青井社は鎮座してすでに八百年となっており、造営は清兵衛としても一大事業となった。朝鮮での戦で大いに奮闘、関ヶ原でも岐阜大垣で活躍し、狭いながらも何とか所領を安堵され、無事に故郷へ帰って来られたという御恩返しの建造である。神君家康公の肝入りによって京都や紀伊などから一流の宮大工と錺職人、漆職人らを多数呼び寄せ、家康公から贈

られた神柱もほどなく到着した。この木は木曽で切り出されて乾かされたのちに製材され川を下り、さらに大坂の港から瀬戸内を渡り府内大分に上陸、そこから荷馬車で九重阿蘇を越えてほぼ半年ばかりかけて人吉に届けられたものであった。太い丸い木材を四角にしたのち削り八角、十六角、三十二角とし、さらに削って削って見事に綺麗な円柱にしたものである。

社殿は順調に出来上がっていた。全ての建物は何重にも漆が塗られ、色鮮やかな社殿が造られていた。拝殿や幣殿の方々には見事なまでの桃山様式の『錺金具（かざりかなぐ）』がびっしりと付けられ、さらに金具の『釘隠（くぎかく）し』は境内にある計百八枚すべてに天皇家の御紋『菊』と藤原家の紋『五三（ごさん）の桐』と、さらに六つの♥『猪の眼』の入った模様に仕立てられた。勿論この見事な錺金具はこののち拝殿や幣殿などで未来に伝えており、力のこもった実にいい仕事が施してある。しかしこれもまさしく清兵衛の『偽装工作』の一つであった。本殿、廊、幣殿、拝殿、楼門と造築は順調に進んでいった。青井大明神は着工から約三年かけての完成となる。

（つづく）

【やまぐち・けいじ／人吉市】

くまがわ狂句

村上鬼拳

気っ風の良さ　此の社なら骨埋めてええ
気っ風の良さ　苦労した過去持つとらす
体質が　やっぱ金権から抜けん
ラストチャンス　もう若くないシンデレラ
楽々と　「かまど」「釣瓶」思うなら
重さ〳〵　期待に応えきるどうか
ドック入り　たまには錆も落とさんと
うすとろさ　やたら盗作誉められて
腕まくり　勝利の美酒は目の前ぞ
粋がって　すぐ物置イなる茶室

【むらかみ・きけん／人吉市】

外来語から学ぶ英単語（32）…… 藤原　宏

フライ・フライヤー・フライング・フライド
fry　fryer(frier)　frying　fried

日本語の天ぷらやフライは、油をたっぷり使って揚げたものを指しますが、英語の**fry**（フライ）は、油を用いてフライパンなどで魚や肉を「揚げる・焼く・いためる・温める」など広い意味で使われます。

「**fryer·frier**（フライヤー）、フライする人・もの」には、「フライ料理人・フライパン」の意と、「**fry** するもの」即ち焼肉用の若鶏（ブロイラー）の意があります。

日本でいうフライパン（揚げ物用平鍋）は、普通は「**a frying pan**（フライイングパン）」といいますが、米国では **frypan**（フライパン）も使われます。**frying** は「**fry** すること（油で揚げること）」の意の動名詞形です。

「**fried eggs**（フライド エッグズ）、目玉焼き」「**fried chicken**（フライド チキン）、鶏肉のから揚げ」の **fried**（油で揚げられた）は **fry** の過去分詞形です。

「**potato chips**（ポテトチップス）」はイギリス英語で、アメリカでは「**fried potatoes**（フライド ポテトーズ）」又は「**French fries**（フレンチ フライズ）」といいます。

(399)

ひろしの…

げっかん・ぎひょう



―辺野古新基地反対の沖縄県の民意が3連続で勝利―

自公が総力をかけて闘ったが、翁長前県知事の遺志を受け継いだ玉城デニー氏が歴史的な勝利。その後、豊見城市長選に那覇市長選へと続いた。

倉敷便り ㉓

絵と文／原田 正史

岡山県の多重塔（たじゅうのとう）

岡山県には古い時代の建造物である多重塔が比較的多く残されており、次の様なものがあります。

1,「安住院多宝塔」県重文。岡山市国富2丁目、安住院。元禄年間（1688～1704）に岡山藩主池田綱政（いけだつなまさ）によって建てられた二重塔です。3間四方（1辺5・6m）、総高20m。

2,「遍照院三重塔」国重文。倉敷市西阿知町、遍照院。寛和（かんな）元年（985）開基。塔は応永23年（1416）に再建されたもの。一辺4m、総高21・3m。

3,「五流尊瀧院三重塔」県重文。倉敷市林、五流尊瀧院。文政3年（1820）に建立。1辺4・3m、総高21・5m。

4,「蓮台寺多宝塔」県重文。倉敷市児島由加、蓮台寺。天保14年（1843）に再建。県下最大の多宝塔、一辺6m。

5,「遍照寺多宝塔」国重文。笠間市笠間、遍照寺。慶長11年（1606）建立。一辺3・94m。

6,「宝福寺三重塔」国重文。総社市井尻野、宝福寺。永和2年（1376）建立。一辺3・6m。南北朝時代のもの。

7,「備中国分寺五重塔」国重文。総社市上林。天保8年（1837）再建。一辺3・77m、総高38・2m。

8,「大瀧山三重塔」国重文。備前市大内、大瀧山福生寺。寺院は天平勝宝年間（749～757）の創建。現在の塔は、嘉吉元年（1441）に再建されたもの。一辺3・77m、総高19・72m。

9,「真光寺三重塔」国重文。備前市西片上、真光寺花蔵院。慶長6年（1601）に、牛窓町（現瀬戸内市牛窓町）の蓮華頂寺からこの地に移転されたもので、室町時代のもと思われる。一辺3・83m、総高18・2m。



総社市にある備中国分寺五重塔

10,「木蓮寺三重塔」県重文。牛窓町（現瀬戸内市牛窓町）、木蓮寺。元禄3年（1690）建立。一辺2・4m、総高13m。元禄期の秀作。

11,「静円寺多宝塔」県重文。瀬戸内市邑久町本庄、静円寺。元禄3年（1690）再建。一辺3・3m、総高12m。

12,「長福寺三重塔」国重文。旧英田町（現在は美作市真神）、真神長福寺。寺伝によると天平宝字元年（757）に真木山頂に開基。弘安8年の（1285）建立。昭和25年、現在地に移転。一辺4・25m。

13,「本山寺三重塔」国重文。久米郡美咲町定宗、本山寺。津山藩主森長継によって承応元年（1652）に建立。県下最大の三重塔で一辺4・85m。

以上のように、岡山県には13の多重塔が現存します。その中で、8基が国重文、5基が県重文です。その中で最も多くの人たちの目を惹くのが県下第一の高さを持つ倉敷市の北部に隣接する総社市の「備中国分寺五重塔」です。岡山県は、昔の国名である東部の備前国と、中央部の備中国、そして西部の備後国と、更に備前国の北東部にある美作国の四つの国から出来ています。

国分寺というのは天平13年（741）、聖武天皇の勅願によって、五穀豊穣・国家鎮護のため、国分尼寺と共に国ごとに建てられた寺のことです。したがって岡山県には四つの国分寺が建てられましたが、いずれも建

物は現存せず所在地が地名として残されました。

備中国分寺五重塔の近くには、広い駐車場と大きな売店とがあり、見学に大変便利です。私がお世話になっている老人福祉施設オリーブ・ガーデンからも程近く、車だと30分で行けます。そのため来所し始めた頃には何回も見学に連れて行って貰いました。オリーブ・ガーデンを出発して市街地をしばらく進むとやがて左右に連なる丘陵状の山地が現れます。その山地に切り込まれた谷の道を越えて北側の平野部に入り、少し進むと左手前方に周辺を睥睨するかの如く忽然として五重塔が出現します。初めてその威容に接した時の感激を今でも忘れることが出来ません。奈良や京都のように僧堂ひしめく仏教本来の地で多重塔を見るのは当然のことながら、この様な草深い片田舎で、空高く聳え立つ五重塔を見ることが出来たのは全く予想だにしなかった出来事でした。

今を去る1275年前の昔、ここ備中国総社のこの地に、国分寺が建てられたのだと思うと、感慨新たなものがあります。この南方に広がる倉敷は、小島が点在するだけで、すべてが広い海の底だったのですから、この地こそが備中国の中心であり、瀬戸内海の海岸線が直近に迫る場所だったことになるのです。

天平の七堂伽藍いずこかと
訪ぬる里に秋風ぞ吹く

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

新年のごあいさつ　各種書式取り揃えております。

年賀状印刷承ります

喪中・欠礼はお急ぎください

印刷料金（税込・はがき代別）	
10枚 2,880円	70枚 5,050円
20枚 3,180円	80枚 5,440円
30枚 3,490円	90枚 5,820円
40枚 3,880円	100枚 6,200円
50枚 4,270円	150枚 7,990円
60枚 4,660円	200枚 9,690円

人吉中央出版社　TEL23-3759

おっとわっとあすび　その㉒

絵と文／松舟博満

アケブちぎり

彼岸も過ぎれば、日曜日んまちなごぅしてぬさじゃった。

「山ゃ行く時ゃ昼っからは、いたぁちゃなん」てやかましゅぅ云われとったで、学校から戻った土曜日ん昼っから先の日の長ぎゃもんじゃった。

日曜日んくれば、母さんに握り飯ば握ってもろぅて、飯んしゃにゃ塩鯨どん焼いてもろぅたとば風呂敷ん包ぅで、布ん手提げん入れて、永葉ん方さみゃアケブちぎっぎゃ行きおった。

アケブの生っとっ所っば見つけてうぇた所けぇ行たてぇ、だっが登ってちぎっかば決めてからんアケブちぎりじゃったで、木にのぼってちぎん者んな、ひ割れっしもぅとっとは、木ん上でちぎって食ぅて良かったで、下ちゃおってつこかすとば受け取っもんよまたくしゃ食いぎゃなっおった。



我がで登っきっぐたる所けぇなっとっときにゃ、こんだぁおっがちぎっちゅうて、かたっごしい登ってちぎっおった。

登っとんもんなぁ下ちゃおん者んば見ゆっとけいかせて、ちぎって投んぎゃったとば取ってもろぅて、ちぎってしまえば木からおじってきて太か順に並るべて、木に登った者んから一ちょ取って、あとは、じゅんぐりぃ取っていたぁて、はしたんでれば木ん登った者んのてぇなった。

ついでんアケブばちぎんながら、ウベん生っとっ木ば見つけておきおったで、ウベん熟るっ時にゃ、ここっやすぅ見っけぎゃなった。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

お休みどころ通信①
慈恵病院で話す

精神科医　興野康也



熊本市にある慈恵病院の「こうのとりのゆりかご」。いろんな事情で赤ちゃんを育てられなくなった親が、子どもを置いていかれるそうだ。慈恵病院ではただ受け入れるだけでなく、親の相談に乗ったり、さまざまな支援活動をされている。

9月に「周産期懇話会」という産婦人科スタッフの勉強会でお話させていただきました。そのときに質問してくださったのが産婦人科医の蓮田健さんです。自分が人前で話すときにいちばん恐れるのは、つまらなくて誰も反応してくれないことです。なので蓮田さんが発達症の困難事例の対応について質問してくださったときには、非常にありがたかったのでした。まさにそこそ僕がお伝えしたかったことだからです。

会のあとにも蓮田さんと話し、非常に近い関心領域があると感じました。直感的なのですが、「自分にとって大事な人になる」と感じたのです。その後メールでやり取りしながら、僕も蓮田さんの慈恵病院に話しに行かせていただき、蓮田さんにも僕の病院の発達症勉強会でお話いただけることになりました。短時間の出会いからここまで発展することは異例ですが、人の出会いにはそういうことがあります。不思議ですね。

ほんとうは家族で慈恵病院に行かせていただく予定でしたが、娘のしずくが病気で入院してしまいましたので、僕一人で出かけました。蓮田さんが勤務する熊本市の慈恵病院は「こうのとりのゆりかご」という、赤ちゃんポストを行っている日本で唯一の病院です。いろんな事情で赤ちゃんを育てられない母親たちが、赤ちゃんを置いていかれるそうです。その受け入れをして、乳児院につないだり、特別養子縁組への手配をしたりされているそうです。それだけでも驚きですが、さらに相談員を3人も置いて妊産婦の電話相談を無料で受けたり、子ども食堂をされたりと、多様な支援を展開されていてすばらしいです。

しかも人助けを経営も成り立たせながらされているというところが、さらにすごいところです。熊本市のような大都市になると、産婦人科の病院の競争も激しく、運営していくだけでも大変です。そこに「お金にならない」活動をたくさんされています。蓮田さんが超人的に働かれているからこそ成り立っているのではないかなと想像します。

さて病院スタッフの皆さんの勉強会で発達症の支援と、産婦人科と精神科の連携支援の話をさせていただきました。あとでスタッフの方とお話すると、やはり支援が難しい多問題ケースをたくさん抱えておられるそうです。多問題家族のケースなどは解決には何年もかかることが多いのです。僕からすると、関わって悩んでくださる方がいること自体がすばらしく、ぜひこれからもいっしょに勉強や事例検討などをしていきたいと思いました。



10月28日に人吉駅であった「ノスタルジック人吉」に家族で参加する。

そのあと蓮田さんのご家族にお会いできたり、蓮田さんと食事しながらお話を聞けたりしました。形は全然違いながらも、地域にある支援が入りにくい困難事例の解決に向けて取り組んでいるというところは共通でした。なので分野が違うという感じがあまりしませんでした。むしろ似ている点が多くて驚きました。

僕の人生では、ときどきですが、新しい分野に目を開かせてくれる「人生の師」との出会いに恵まれてきています。蓮田さんもまた、僕を刺激して育ててくださる方なのでしょう。そういう出会いはまさに天の恵みで、感謝するほかありません。これからどんな形でいっしょに活動していけるか楽しみです。

【おきの・やすなり／人吉市】

北御門二郎訳でトルストイを読む ⑤

壺のアリョーシャ

喜多岡　洋

忍従

一読して、なぜトルストイはこの作品を激動の時期に書いたのかと思った。１９０５年、ロシア第一次革命の年に、トルストイはこの作品を書いた。革命時に、トルストイは支配者の横暴に奴隷のようにひたすら忍従する若者の姿を描いたのである。人が奴隷的忍受にたえた時代は歴史上あった。しかし、そうした時代を革命のさなかに描く理由はあったのだろうか。あったとすれば、それはなにか。小説には時代性がつねに宿る。

主人公の若者は、奴隷的忍順に耐えたのち、「この世で誰にもあらがわず、誰にも悪いことをしなかったから、あの世でもいい事があるだろう」と思いつつこの世を去る。私はロシア語の原文を知らない。北御門訳であるから原文に忠実に、あるいは、トルストイ的に翻訳したにちがいないであろうが、それだから若者のいう「あの世でも」の「も」が気になる。「この世」で苦しみに耐えたらから、「あの世では……いい事がある」というのであれば理解できないことはない。しかしトルストイはそうとは書かない。「あの世でもいい事があるだろう」というのだ。トルストイは、もしかしたら、そうした農民の心性（メンタリティー）の正確な描写に力を注いだいのかもしれない。もしそうであれば、そうした農奴的忍従の心性の「改訂」・「打破」がおのずから実践的課題として浮かび上がってくるだろうし、そうであれば、この作品は時代に相応しいものとなる。しかし、そのような間接的な書き方をトルストイは果たして選択しているのであろうか。

トルストイの作品である以上、「忍従」はキリスト教的規範とみるべきかも論点になる。どう考えるべきか。もし、それがキリスト教的規範であるとすれば、キリスト教は奴隷的「忍従」を被支配者にひたすらに求める支配者にひどく都合のいい教義ということになりかねないが、そのように理解していいのだろうか。歴史的にみるとき、そうした役割をその「教義」が担ったときはまちがいなくあった。マルクスが『ヘーゲル法哲学批判・序説』で「宗教は阿片である」と語ったときの「宗教」がそうであった。宗教だけが「阿片」だったわけではないが、宗教が「阿片」になりかねない状況がかつてあったこと、いまもあることを否定するわけにはいかない。

この作品の主人公（アリョーシャ）は、キリスト教の「教義」に思考を拘束され忍受の世界にとどまったのであろうか。彼は朝と晩に、十字を切ってお祈りをしていた。しかし、お祈りの言葉を知っていたわけではなく、まったく知らなかった。母親に教わったが、すべて忘れていた。お祈りの言葉をすべて忘れても、その教義が子どもの頃に身体に染み込んでしまったのかもしれない。それとは別に、キリスト教の教義に問題があるというよりも、封建的支配構造のもとでの農民の思考様式は隷属的にならざるをえない宿命にあるとみるべきかもしれない。この問題は、社会学的には、マックス・ウエーバーの「支配の構造」論につながる。

イワンか、それとも、アリョーシャか

本作の主人公はこれまで紹介してきた登場人物とは性格がちがう。『イワンの馬鹿』のイワンともちがう。訳者・北御門は、「人間がどこまで善良で、献身的で、忍受に耐え得るかの極限状態を描いたもの」、『イワンの馬鹿』のイワンにも、アリョーシャ（この作品の主人公）に通じるものがたっぷり描かれているけれども、ただイワンの中には、悪に対する非服従の義務（the obligation to disobey）遂行の厳然たる態度が併せ含まれていて、読者に一種の安堵感を与えるが、アリョーシャのひたすら温柔と謙抑と自己棄却に終始する姿には、思わず目頭が熱くなる」と本作を説明し、「私などアリョーシャとは凡そ程遠い性格で、彼の前にただ恥じ入るばかりであるが、それでも私の心の片隅のどこかにアリョーシャが住んでいて、そのがアリョーシャが私の中で泣いているのだと思いたい」とし、マタイ伝第5章「泣く者は幸いなり、彼等は慰めを得んとすればなり」を引用しているが、直ちには納得できない説明だ。「悪に対する非服従」論は理解できるが、「自己棄却」論を受け入れるのは難しい。「馬鹿のイワン」になることは難しい。ましてや、この作品の主人公（アリョーシャ）には到底なれない。評者はそれで良しと考えるのだが、訳者・北御門はどうであったのろうか。北御門はどのような人間を目指そうとしたのであろうか。イワンであろうか、アリョシャーなのか。あるいは、その両者とは異なる途であったのだろうか。



「壺のアリョーシャ」
『トルストイ短編集』（人吉中央出版社、2016所収）1905年作、1988年3月北御門二郎訳

『壺のアリョーシャ』は、アリョーシャの母親がかれに牛乳のはいった壺をもたせ、補祭の奥さんのところへやったら、途中で躓いて壺を割ってしまい、ひどく叱られて「壺のアリョーシャ」と渾名をつけられたことに由来する。

【きたおか・ひろし／八代市】

くまがわすじの考古地誌

(23)

球磨川筋の弥生時代㉓

八洲開発株式会社　木﨑文化財研究室長　木﨑康弘

(NO.184)

「免田式」を使おう!⑨
夏女遺跡、青銅器の話②

前号では、夏女遺跡の発掘で特に注意を引いた青銅器について、そのガイダンスを書いた。そこで続いて、夏女遺跡で見つかった青銅器について、見ていくことにした。

夏女遺跡の青銅器は、三点。二点の小型仿製鏡（日本列島で作られた模造鏡）の内行花文鏡（図1―①、②）と、一点の銅釧の破片だった（図1―③）。そこで、それぞれの青銅器と、見つかった竪穴式住居、一緒に出土した遺物を見てみよう。

①は、八個が基本数の半円を内向きに連続させた文様、内行花文を付けた鏡、内行花文鏡である。連弧文鏡と言った方が適切かもしれないが、日本考古学界では、内向きに連続させた半円を花弁と見立てて、そのように呼ばれている。

直径は、八センチメートル。縁は平らの平縁で、無文。その幅は〇・七センチメートルで、その端は丸みを持っていた。平縁の内側には、櫛の歯状の刻み目が斜めに付されて幅五ミリメートルの列が帯状に巡る文様帯、いわゆる斜行櫛歯文帯があった。その櫛歯状刻み目は、一単位三～五本だったが、表面が腐食しており、観察できたのは半分の範囲。

内行花文帯の花文数も同様で、確認

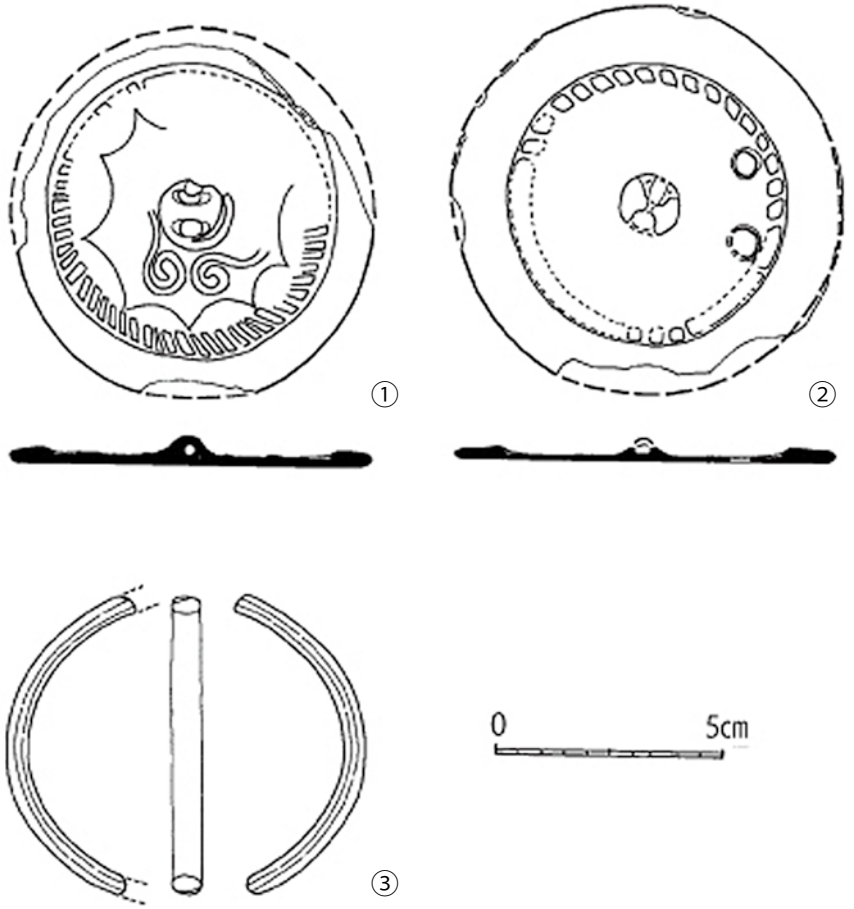


図1　夏女遺跡で見つかった青銅器3点

できたのは、全体の四分の三ほどの八個弱。これから推して、元々の花文数は、九～一〇個だったようだ。鋳型への花文削り込みは、その状態が不揃いであったことから、コンパスを使わず、フリーハンドだったことが窺えた。また、さらに内側には、端部をくるりと渦巻状に丸めた、蕨手文が施されていた。紐は一重の円圏をもつ円座紐。直径は一・二センチメートルで、紐孔の直径は二・五ミリメートル。その左上向に紐擦れが観察されたという。

見つかった竪穴式住居跡は、五〇号。円形の平面形で、その状態から、その円形をさらに円形に巡らすベット状遺構が付いた住居跡であったと推定できる。園村辰美の分類では、Ｖａ類に属するも

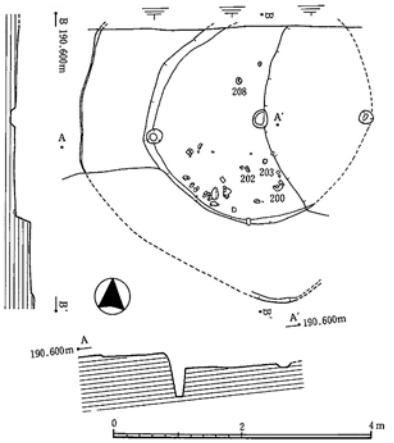


図２　50 号竪穴式住居跡

のと思われる。住居は、四九号竪穴式住居跡によって北側が壊され、さらに中央の円形床を残して、ベット状遺構の上部まで削平されていた。したがって、ベット状遺構も一〇センチメートル程度しか残存していなかった。鏡の出土状態は、ベッド状遺構の部分で、文様のある裏面を上にし、ほぼ水平であった。

一緒に見つかった土器には、胴部の最大径が上位にくる甕形土器があった。器面は、丁寧にナデ調整で仕上げられており、頸部内面の屈曲も明瞭である。この外に、ミニチュアの鉢形土器、壷形の手捏土器などがあった。

②は、直径八センチメートル。縁は平らの平縁で、無文。その幅は七ミリメートルで、その端は丸みを持っていた。平縁の内側には斜行櫛歯文が幅〇・四センチメートルで帯状に廻っていた。ただし、表面の劣化によって状況は不明瞭で、刻み目の単位は確認できなかった。さらに内側の区域は非常に劣化がひどく、文様も確認できなかった。鈕も欠けていたが、その痕跡から直径一・三センチメートル、鈕孔の径は二ミリメートルであったことが推定できた。また、斜行櫛歯文帯に接して二個の孔が穿たれていた。その径は右側が〇・四センチメートル、左側が〇・五センチメートル。この孔は紐等を通すためだったようで、それを通し、使っていた間に付いたと思われる紐擦れの痕が観察できた。もしかしたら、鈕が取れたことによって紐を通すことができず、その代わりに孔を開け、ペンダントのように吊り下げていたものか。

見つかった竪穴式住居跡は、二三号で、園村辰美の分類では、Ｖａ類に属するものであった。平面形態は円形で、中心部の直径一・六～一・七メートルの楕円形の範囲が一段低く、その周りをベッド状遺構が取り巻いていた。ただし、かなりの部分が、二一号と二四号の竪穴式住居跡によって壊されていて、細かいことは分からなかった。この床面の段差は、西側で二二センチメートルだった。炉は中央に設けられており、二六センチメートルの円形で、深さ八センチメートルだった。柱穴はベッド状遺構の際に二個、炉を挟んで東西に穿たれていた。おそらく、これらが

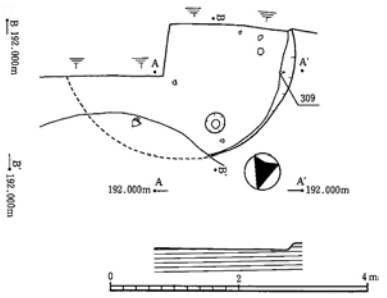


図３　23 号竪穴式住居跡

主柱穴になるのだろう。

鏡は、この住居跡の炉の北寄りやや三〇センチメートルの所、床面よりも一五センチメートル浮いた状態で出土した。つまり、床面の直ぐ上、つまり床に乗った状態で見つかったものではなく、一五センチメートルほど土が埋まった時に入り込んだ青銅器だったものか。また、一緒に見つかった遺物には、石包丁二点、鉄鏃三点、鉇（やりがんな）一点があった。土器では、鉢形土器、胴部最大径が上部にくる脚台付きの甕形土器があった。

③は、六五号竪穴式住居跡から出土した銅釧（くしろ）の破片である。釧とは腕輪、ブレスレットのこと。直径が内傾八・〇センチメートル、外径一〇・二センチメートルで、全体の約七分の三の遺存状態だった。重さは一五・九九グラムの、ずっしりした重さ。表面は丁寧に研磨されて、色調は深い緑黒色で、光沢を残していた。断面形態は楕円形で、その断面を見ると、表面の錆びが〇・一ミリメートルあることがわかり、また白銅色に近い黄銅色で光沢があった。表面で感じた以上の良質感があり、おそらく舶載品と考えられる。これまで、住居跡からの出土例はなく、全国的にも非常に珍しいもの。

見つかった住居跡は、不定形で、南側の一部が調査区外にのびていた。平面形態は隅丸の方形で、東西軸が四・一メートル。壁高は二一～一九センチメートル。炉はやや北寄りにあり、一辺が約六〇センチメートルの三角形。五センチメートルの深さで、焼土が残っていた。柱穴は炉よりやや北寄りに二個穿たれ、炉との位置関係から、四本柱であったと思われる。

土器は、少なく、高坏形土器の脚部片。

以上が、三点の青銅器と出土した竪穴式住居跡と一緒に見つかった遺物だった。そこで次回には、それらの青銅器が意味することに言及することにしたい。

（つづく）

【引用参考文献】
・園村辰実　一九九三『夏女遺跡』
熊本県教育委員会

天草の「五足の靴」
――「パアテルさん」と「茂助」は何処に居る⑦

冨永和信

本稿は、『五足の靴』の最大の目的である〝パアテルさん〟と会って話を聴く、クライマックスのところである。

『五足の靴』原文より

（十三）大江村

『御堂』はやや小高い所に在って、土地の人が親しげに『パアテルさん、パアテルさん』と呼ぶ敬虔なる仏蘭西の宣教師がただ一人、飯炊男の『茂助』と共に棲んでいるのである。案内を乞うと『パアテルさん』が出て来て慇懃に予らを迎えた。『パアテルさん』はもう十五年もこの村にいるそうで天草言葉がなかなか巧い。『茂助善か水を汲で来なしゃれ』と飯炊男に水を汲んで来させ、それから『上にお上りまっせ』と懇ろに勧められた。また予らが乞うに任せて、昔の信徒が秘蔵した聖像を彫んだ小形のメタル、十字架の類を見せてくれた。それに附いていた説明の札には『このさんたくるすは、三百年まへより大江村のきりしたんのうちに、忍びかくして守りつたへたる貴きみくるすなり。これは野中に見出でたり。』云々と書いてあった。（後略）

【筆者注記】

この後、五人に対して〝パアテルさん〟はこの地方のこれまでの歴史や、〝島原の乱〟後、クリスト教徒の大抵の家は「踏み絵の二度踏み」を命ぜられたこと。大方の人は、命には代えられずに〝転んで〟しまったが、ただこの山の上の二、三十軒のみは「ディウス」の教えを現在までも守り伝えて来た、と教えてくれた。さらに、この地の信者は、生き延びるための知恵で冠婚葬祭についてもクリスト教と仏教の両方の仕来りを上手に使って凌いで、今日に至っている。

五人の若者は、この長い過酷な迫害の中、逞しく生きてきた信者たちの話を、この敬虔なパアテル神父から直接聴くことが出来て、これまで経験したことのない、えも言われぬ感動を覚えたに違いない。



五人づれ 著『五足の靴』（2007 年、岩波文庫）

（二十四）徳山　（二十五）月光

九州南蛮文化紀行を終えた五人のうち与謝野寛、吉井勇、太田正雄の三人は柳川から周防徳山の徳応寺にて寄泊する。なぜ徳山かというと、徳応寺（赤松家）に与謝野の実兄・照憧師が養子入りして十六代住職を務めていたからである。

余談となるが、同寺十五代住職・赤松連城師は、同じ長州藩徳地の妙誓寺・島地黙雷師などと共に明治維新政府の廃仏政策に生命を賭けて敢然と立ち向かい、我が国の仏教の危機を救った法師である。同僧は最後は西本願寺の学林総理、次いで観学、執行長となった偉僧である。

十六代照憧師は、謹厳実直そのもので寺を護り、女学校や幼稚園を経営され、当地域の婦女子の教育、地位向上に貢献をされた。与謝野寛自身も一時期、当女学校の教師をしていたこともあり、深い縁のある地である。

若者三人の徳応寺の晩餐での対応は滑稽極まりなく面白く愉快。如来様を正面に経机や一切経のある前で極めて不信仰の三人は、あぐらをかいて有り難い般若湯をいただく。向かい側にはご住職以下副住職、奥方令息令嬢が正座。そして当女学校卒業生数人が小笠原流礼儀作法に則って一酒、一菜に至るまで給仕してくれるのであるから、ちぐはぐの連続。

さらに教育者の住職の真面目な話に閉口している三人であったが、副住職が機転をきかせて「今宵の月は誠に佳く、海も静かですから船を浮かべましょう」と助け船を出してくれた。三人は窮地を脱し、静寂こうこうたる月光の徳山湾に船を出して詩などを詠じ、遊泳するなどしてひと時を興じた。

なお、私は数年前に十五代住職・連城師及び与謝野寛について調べるため当寺に赴き、十六代住職の直系で現住職夫人に両氏のことを詳しくお聴きすることができたことを附記して、この稿を終わりたい。

【とみなが・かずのぶ／山口市】

方言を味わう㉘

稲留三郎の世界⑦

―巻三「家作り見舞い」のくだり―

前田一洋



前号で大事な所の〝解説〟をうち忘れておりました、これも「本当のドモたいぬう」と嗤われても仕方がありません。「青椿」「雪隠」いずれも読み方はセッチン、「閑所」こちらはカンゼです。意味はもう微かな匂いが漂ってきた様にお便所、そうおトイレです。

たしかに「小便たんご」「べぇたんご」などの名称もありましたが。しかし、そうした直接的な表現を避けて、同じ汚い所でも優雅に表現するという能力が日本人には備わっていたようです。「お手洗い」「化粧室」「おまる」などもそうですね。また腰巻きのヘコを「お腰」や「ゆもじ」などという具合に、古くは女性専用の言葉も遣われてきました。

それにしても「閑所」とは全くの傑作、どんなに忙しい人でも、あすこにしゃがめば、モノが出てしまうまでゆっくりと待つしかありません。ひり出す毎に、ううう騒動をしなければならない「ぢぬし（痔主）」さんは別として、ガワからみればまことにヒマな場所。

それでは、『家作り見舞い』の続きです。

バカづらひっさげた総領息子が、珍しくも「家の作り方見様がありもすどか」と、頭のどの辺りから出たのか仲々気のきいた質問。

「客、いや見様がいろいろあるたいねー。先ず大工殿はじめ砂官（左官）、畳屋、張り付け人、それぞれの秘伝秘術があって、むつかしかもんばい。まあ何品も何事にも第一規矩準縄というが元じゃるでー、これを以て見るもんたい。それ家はどっこも真っすぐ真四角うはでけんもんたい。柱も一本も真っすぐうはなかもんばい。それで人間の心も曲がってよごうどるたい。見やり申せ、小庭の松も床の生花も、みんなよごうどるたいぬう。それで今の世の中の人も、上甲から見れば上物なれども、心アひっよごうで穢うして、いけんばい。見やるごと木も人も、みんなよごうでおっても、心しゃーか真直ぐうして、よがまんばよかもねーせんばならん。なれども、形はよごうでおっても心は規矩準縄と、大木の心を持ちやれ。身直うして陰よがまずという事もあるたい」。

家の見方にことよせて、ご老公のお説教が始まりました。おそらく四書五経に通じた学者でもあったのでしょう。お話の中に「規矩準縄」などという、この子供たちには消化不良を起こすような熟語まで飛び出しました。

ちなみに規矩というのはキクと読み、直線を引く定規と、ぶんまわしのコンパス。準縄はジュンジョウで、屋敷の整地をし家屋の基礎になる水準を決める水糸のこと。いずれも棟梁にとって必須の道具、それを世ん中の基本として例えています。ただ子供たちに、どの程度の理解ができたのか分かりませんが、ご老公の得意げなお姿が目蓋に浮かびます。

「家はいつごろでけつろうか。客、家作りの始めは聖徳太子が元祖たい。座敷、書院は鎌倉将軍頼朝が仏法に帰依して、座敷に床を作り仏像を安置して、掛絡を掛けて仏を信仰す。この時より武家は床を作り仏像を掛けて香を薫き花を立てて信仰す。これによって相良三郎長頼公も蓮仏の仏号なり。二代目頼親公も、将軍寛頼公も逝去の時泉州堺の法大寺にて落髪し、観仙とお改め。これ武家の床付けの始めなり」、なるほど。

「袋棚は掛け物や、経文を入れ納める所。違棚は経文、掛絡(掛け軸)、数珠を置く所なり。と、色々咄があるなかに茶が出たが。茶碗は太うして濁って泡立てて、たぎって焼けて手が痛とうして握られんばい。この茶は何ちゅう茶じゃろうかぬう。客、これは濃茶薄茶ちゅうて、その内の薄茶たい」。

「愚、これには呑みようがあるどか。客、茶の湯には呑み方に法がある。この薄茶は、人別に呑む。濃茶は呑み回したい。茶碗の取り様、呑み様に夫々の式法あり」。

さて次号では、茶道についてのご講釈、ご期待あれ。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

くまがわ学習塾 ㉓

問１　オリンピックの女子陸上競技の種目を 10 あげよ（例 :100 m）

①（　　）
②（　　）
③（　　）
④（　　）
⑤（　　）
⑥（　　）
⑦（　　）
⑧（　　）
⑨（　　）
⑩（　　）

問２　球磨川にいる魚の名前を５つあげよ（例：アユ）

①（　　）
②（　　）
③（　　）
④（　　）
⑤（　　）

問３　熊本県内にあるダムの名前５つをあげよ（例：市房ダム）

①（　　）
②（　　）
③（　　）
④（　　）
⑤（　　）

問４　エンブリー夫妻についての以下の記述は正しいか。正しいときには○を間違いのときには×をつけよ

（例：夫妻は、お酒を飲めなかった。下戸であった＝×）

① 夫妻には息子１人と娘３人がいた
② 夫妻は通訳を雇っていた
③ ジョンは、『須恵村』を帰国する船のなかで執筆した
④『須恵村』には、須恵村独自の方言「はじあい」という言葉が登場する
⑤ 夫妻が須恵村を調査した当時、須恵村には、大学を卒業した人物はいなかった

問５　次の写真の名前を書け（ヒント：本誌 31 号）





①（　　）　②（　　）

※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは86頁で。

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

お日様の恵みを棄てて悪魔の火使えというや九電さんよ
北の核取り上げながら自らは核実験なすトランプ政権
柳原　三男

山里はたわわに柿の色づきぬ住む人のなき荒れし庭にも
秋の野に咲きたる花を束にして新七草（しんななくさ）と名づけ楽しむ
坂本　ケイ

武家屋敷娘に押され巡りゆく観光客にも支えられつつ
杖つきて夫に添われ歩みたり紅葉（こうよう）深む山々眺め
上田　廸子

明日が来るただそれだけの幸せを今日は思いて眠りにつかん
秋寒の真夜に聞こゆる鹿の声太古の闇へ呼びかけいしか
宮川しのぶ

民意背に新知事毅然と船出せり一語一語を噛みしめ聴きぬ
亡き知事の血を吐く闘いありてこそ新沖縄の幕は開きぬ
上田　精一

マイ・文庫本

『書店ガール7』

碧野圭著（PHP学芸文庫・2018年9月21日）

白城松男



人気シリーズでテレビ化もされた。現在でも人気があるのだが、本書でシリーズは終了した。ストーリーに無理があったわけではない。同書の世界は現在も進行中である。

本シリーズは２０１２年３月29日にはじまった。今年で7年目ということになるが、シリーズ第1作は単行本『ブックストア・ウォーズ』（２００７年10月　新潮社）を加筆修正し、改題・文庫化した作品で、実質的には、約11年間、物語はつづいてきたことになる。右で触れたように物語はいまでも継続中である。出版不況のもとで書店閉鎖があいついでいるなかで、このシリーズは書店存続の可能性をくりかえし問いかけた。

ネット社会の到来は書店の存在基盤を失わせつつある。それは時代の流れのようにもみえる。書店は消滅する運命のもとにあるかのようでもある。問題は2重である。第一に、電子本は紙文化としての本を駆逐するのか。第二に、紙の本が存続したとしても、電子書店の登場は書店を消滅させるか。いま、ネットを通じて本を購入する状況は普通にみられる。多数派といってもいいかもしれない。書店に行かずとも読みたい本はネットを利用すれば、速く、簡単に入手できる。紙の本は残って欲しいし、書店も同じく存続して欲しいと願っている人は多いだろうけれども、現実には、どうなのだろうか。

根本的には、「読書離れ」という状況がある。技術的問題はネットで検索して済ませる。ニュースもネットで眺めてすます若者が増えているとされる。各種統計はそれが事実であることを示唆している。作者・碧野は、もちろん、こうした状況を良しとせず、これからも本と本屋の魅力を語りつづけていくであろう。

シリーズの魅力は、本・本屋をテーマにした点だけにあるのではない。女性を主役にし、現代社会における女子労働に焦点を当てている点にもある。就職・結婚・出産・育児などの問題が本書の横糸である。書店のスタッフの仕事に愛し、力をつくす女性たちの活躍は爽快である。しかし、彼女たちは、書店員の前に、人間として（女性として）生きていかねばならない。もちろん、男も同じだ。作者は男性労働者の現実にも入り込んでいる。コメディー筆致ではじまったこともあって、「お仕事シリーズ」と称されるときもあったし、テレビ化される理由にもなったのだが、作品が提示してきた問題は重たい内容である。

シリーズのもうひとつのモティーフは都市と地方の「対立」である。若者はなぜ、都会を目指すのか。地方はどのようにして生き残っていくべきかも作品の視野に入っている。

第7作の本書を読み終えて、直ぐに、1作目から読み返した。碧野という作家が時代とともに歩み、シリーズを編んできたことを改めて知った。このシリーズを再度読み返すであろうか。積読状態を解消しなければならないけれども、おそらく、いつか、再び読むにちがいない。

本シリーズについては、週刊ひとよし８４８号（２０１５・４・25）９頁、同８５８号（２０１５・７・12）６頁、同８５９号（２０１５・７・19）９頁で簡単に紹介した。この第7作では、「ビブリオバトル」論が印象に残った。第1作で40歳であった西岡理子は結婚することはなかった。27歳で結婚した北村亜紀は書店現場に復帰した。理子を尊敬していた学生アルバイトの川西沙保は書店の店員にならず中学校の図書司書になった。支店経営に苦労した宮崎彩加は新しい形の書店を開くため故郷に戻った。第7作のサブタイトルは「旅立ち」である。

【しらき・まつお／八代市】

俳句大学
Haiku University

今月の秀句
Selected Haiku of this Month

永田満徳選評・向瀬美音訳

このコーナーは、「二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れたHaiku」を提案している『俳句大学』facebookページからの転載です。

https://www.facebook.com/groups/1805562046390300/

Haiku Column ㉑

Francesco Palladino
●
Old coat
Few crumbs in pocket for the birds
〔Commented by Mitsunori NAGATA〕
It is the scene of a modest man with his old coat. He picks bread crumb to give to the birds. We feel the nice atmosphere of autumn afternoon.

フランススコ パラディノ
●
古いコート
ポケットに小鳥のための少しのパンくず
〔永田満徳評〕
着古したコート、決して裕福でない人がポケットのパンくずを小鳥に与えようとしている場面である。心温まる秋の昼下がりの雰囲気が伝わってくる。

Sarra Masmoudi
●
plage d'automne-
une petite virée avec mon ombre
〔Commentaire de Mitsunori NAGATA〕
Sur la longue plage d'automne, elle marche sans se presser.C'est amusant que son ombre se promène aussi.

サラ マスモディ
●
秋の浜
影と一緒に小さな散歩
〔永田満徳評〕
どこまでも続く秋の砂浜。急ぐともなく散歩している様子が描かれている。人の「影」もまた一緒に散歩していると捉えたところがいい。

Angela Giordano
●
stelle cadenti-
una manciata di castagne nello zaino
〔Commentaire de Mitsunori NAGATA〕
En regardant les étoiles filantes, elle se bourre de noisettes tirées de son sac à dos. Elle saisit bien une scène de montagne.

アンゲラ ギオルダーノ
●
流れ星
リュックサックに一握りの栗
〔永田満徳評〕
流星が飛ぶのを眺めながら、登山用のリュックサックから取り出した「一握りの栗」を頬張っている情景であろう。登山者のひと時を切り取っている。

【ながた・みつのり／俳人協会会員、熊本市】

前号【くまがわ学習塾㉒の答え】

問１　日本人のノーベル賞受賞者の名前を 10 人あげよ　（例 : 本庶佑）

①（　湯川秀樹　）
②（　朝永振一郎　）
③（　江崎玲於奈　）
④（　小柴昌俊　）
⑤（　小林　誠　）
⑥（　益川敏英　）
⑦（　赤崎　勇　）
⑧（　天野　浩　）
⑨（　梶田隆章　）
⑩（　福井謙一　）

問２　女性の大臣経験者を５人あげよ（例：片山さつき）

① 中山マサ　（厚生大臣　第一次池田内閣）
② 近藤鶴代　（科学技術庁長官　第２次池田内閣）
③ 石本　茂　（環境庁長官　第二次中曽根内閣）
④ 高原須美子（経済企画庁長官　第一次海部内閣）
⑤ 森山真弓　（官房長官　第一次海部内閣）

問３　秋を含む言葉を５例あげよ（例：食欲の秋）

①（　読書の秋　）
②（　スポーツの秋　）
③（　芸術の秋　）
④（　行楽の秋　）
⑤（　実りの秋　）

問４　エンブリー夫妻についての以下の記述は正しいか。正しいときには○を間違いのときには×をつけよ

（例：夫・ジョンは『須恵村』の作者である。○）

① 夫妻は須恵村の覚井に住んだ ○
② ジョンは交通事故で死亡した ○
③ エラ夫人は日本語をまったく話せなかった ×
④ 昭和 10 年の須恵村では新聞を購読している人はいなかった ×
⑤ 夫妻はふたりとも再婚同士であった ×

問５　次の写真の名前を書け（ヒント：本誌 30 号）

①（　鶴之湯旅館　）　②（　七夕綱　）

編集後記

今年の肥薩線の話題の一つは、「ＳＬ人吉」の運行が10年目を迎えたことであろう。人吉駅ではそれに感謝する様々なイベントが行われ（３頁）、同じく結成10周年を迎えた人吉鉄道観光案内人会の記念講演会も開かれた（４頁）。昨年のユネスコ「日本の20世紀遺産20選」へ選定されたことに続く快挙だと言えるだろう。今シーズンは、３月17日に運行を開始し、１２８日間の運行で乗客は約３万人だったという。この人気の秘密は６頁からの「ＳＬ５８６５４の軌跡」に詳しい。★７回にわたって掲載させていただいた冨永和信さんの「天草の『五足の靴』」（78頁）は隠れキリシタンの歴史を知る上で貴重で、山口啓二さんの「小説・相良清兵衛」（60頁）に通じるものを感じた。★今年、発覚した東京医科大学の、女性や多浪受験生に対する入試差別に関する大草知子さんの「『出口』から考える『入口』問題」（50頁）の論考は切実だ。この問題は今もなお尾を引き、女性の新学長が謝罪会見を開いた。覚悟の上で学長を引き受けた心中を察すると頭が下がるが、女性がまた犠牲になったのかと胸が痛む。（ま）

〒８６８―００１５
熊本県人吉市下城本町１４３６―４の３号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hitoyoshi.co.jp
電話・ファックス ０９６６・２３・３７５９

インフォメーション

開催中
▽企画展「やまえのほとけ展2018」（～25日、山江村民俗資料館）
▽秋季特別展「ザ・家老　松井康之と興長」（～25日、八代市立博物館未来の森ミュージアム）
▽五家荘紅葉祭（～30日、八代市五家荘一帯）

11月17日（土）
▽人吉市東西コミセン「歴史探訪」ウオーキング（同コミセンスタート・ゴール）
▽山江村文化祭（同村体育館）

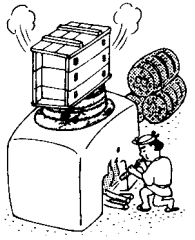
11月18日（日）
▽第13回合唱祭くまがわ（あさぎり町須恵文化ホール）
▽水上村「もみじ祭り」（古屋敷小学校跡）
▽やまえ産業振興まつり（山江村役場前広場）

11月23日（金）勤労感謝の日
▽犬童球渓音楽祭「音楽の広場」（人吉市カルチャーパレス）
▽くまむらスローフードふぇあ（球磨村総合運動公園さくらドーム）

11月25日（日）
▽第16回あさぎり町内一周駅伝大会
▽秋フェスタinみずかみ「農林業祭り・オールドカーフェスティバル」（水上村、汗ノ原親水公園）

11月28日（水）
▽ひとよし・くま市民劇場例会・劇団ＮＬＴ「毒薬と老嬢」（人吉市カルチャーパレス）

TAKEDA Eye Clinic
たけだ眼科クリニック
院　長 竹田 憲司
人吉市南泉田町39　☎23-3096
めがね・コンタクトレンズの
アイ ウェア槇（まき）
（たけだ眼科ビル内）☎0966-23-3097
デイサービスセンター
ケアプラン作成所いずみ
（居宅介護支援事業所）
いずみ
協力医療機関 たけだ眼科クリニック
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の技

御膳醤油
（だし入り万能しょうゆ）

・玉子かけご飯
・豆腐
・お刺身に
300ml 650円（税抜）

◆みそ煎餅
477円（税抜）

◆納豆みそ
（お徳用）
300円（税抜）

◆納豆みそ
477円（税抜）
人吉散策コース 九州相良 蔵めぐり
みそ・しょうゆ蔵
資本金会社 釜田醸造所
マルカマ
会長 釜田元嘉
社長 釜田顕
〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
電話（0966）２２－３１６４
FAX（0966）２２－３１６５
メール info@marukama.co.jp